

# 消費生活モニターアンケート調査報告

2025年10月

愛知県県民文化局県民生活部県民生活課



# 目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果	2
1	消費生活に関する意識について	
問 1	近年遭遇した消費者トラブル	2
問 2	消費者トラブルの相談先	3
問 3	トラブルの際、相談をしなかった理由	4
問 4	安全で豊かな消費生活を営むことができる社会の実現について	5
問 5	高齢者の消費者トラブル未然防止のために必要な対策	6
問 6	若者の消費者トラブル未然防止のために必要な対策	7
2	消費生活相談、消費者教育・啓発、情報提供事業について	
問 7	情報収集に用いる媒体	8
問 8	消費者教育・啓発、情報提供事業の認知度	9
問 9	消費者教育・啓発、情報提供事業の効果	10
問 10	消費生活情報「あいち暮らしっく」の活用	11
問 11	「あいち暮らしっく」等に掲載してほしい情報・分野	12
問 12	「あいち暮らし WEB」及び「エシカル×あいち」の閲覧項目	13
問 13	消費者問題に関する授業や講座の参加経験	15
問 14	消費者問題に関する授業や講座について受講を希望するテーマ	16
問 15	消費生活相談窓口の活用の有効な対策	17
問 16	エシカル消費の認知度	18
問 17	エシカル消費への関心度	19
問 18	普段取り組んでいるエシカル消費	20
問 19	エシカル消費に関して参加してみたいイベント	21
3	食の安全・安心について	
問 20	食の安全に関する取組への関心度	22
問 21	食の安全への影響で特に不安に思っているもの	23
問 22	食品を購入するときに特に注意すること	24
問 23	愛知県の食品衛生を向上させるための取組	25
問 24	アニサキスによる食中毒について	26
問 25	カンピロバクター食中毒について	27
問 26	ノロウイルスによる食中毒について	28
問 27	食物アレルギーの食品表示について	29
問 28	食の安全・安心に関する情報発信に期待する内容	30
問 29	食の安全・安心に関する意見・要望等	31

#### 4 食生活について

問 30	無駄や廃棄の少ない食事づくりについて	32
問 31	郷土料理等の食文化の家庭・地域への継承について	33
問 32	栄養バランスのとれた食事について	34
問 33	野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を食べる頻度について	35
問 34	農林水産物を購入する際の産地について	36
問 35	共食について	37
問 36	朝食について	38

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

「消費生活に関する意識」、「消費生活相談、消費者教育・啓発、情報提供事業」、「食の安全安心」及び「食生活」について、消費生活に関する消費者の意識、認知度、意向などを把握し、今後の施策の参考とするものです。

## 2 調査の実施時期

2025年7月24日から8月22日まで（郵送による）

## 3 調査対象者

愛知県消費生活モニター<sup>(※)</sup> 148名 （回答者数 128名 回収率 86.5%）

## 4 回答者の性別・年齢

(1) 性別 女性：76名（59.4%）、男性：52名（40.6%）

(2) 年代別 10歳代：1名（0.8%）、20歳代：2名（1.6%）、30歳代：9名（7.0%）、  
40歳代：22名（17.2%）、50歳代：33名（25.8%）、60歳代：38名（29.7%）、  
70歳代：18名（14.1%）、80歳以上：5名（3.9%）

(注1) 調査結果の数値（率）は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

(注2) 調査結果中の「有効回答者数」は、「調査対象者」から「未提出者」「無回答」「無効回答」を除いた数です。

※ 愛知県消費生活モニター：愛知県からの依頼により、危険と思われる商品、不当な表示、悪質商法などの観察や、県への情報提供を行うほか、身近な方への消費生活に関する情報の提供等を行っています。

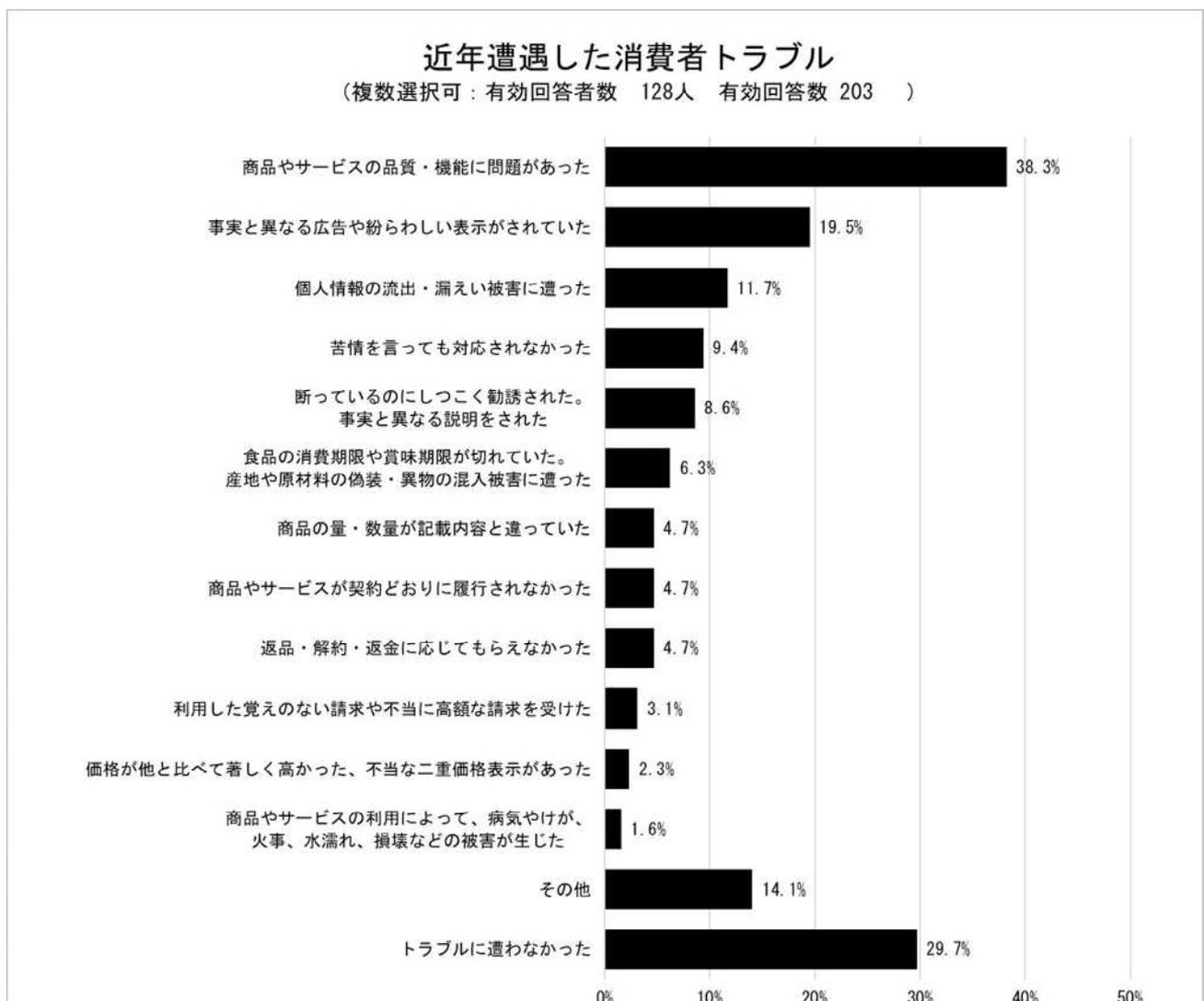
## II 調査結果

### 1 消費生活に関する意識について

【問1】 あなたは、ここ1～2年の間に購入した商品や利用したサービスについて、どのような消費者トラブル（困ったことや嫌な思いをしたことなどを含む）に遭ったことがありますか。  
(複数選択可)

#### <回答結果>

ここ1～2年に遭遇した消費者トラブルについて、「商品やサービスの品質・機能に問題があった」が38.3%で最も多く、次いで「事実と異なる広告や紛らわしい表示がされていた」が19.5%、「個人情報の流出・漏えい被害に遭った」が11.7%の順であった。また、「トラブルに遭わなかった」と回答した人は29.7%だった。

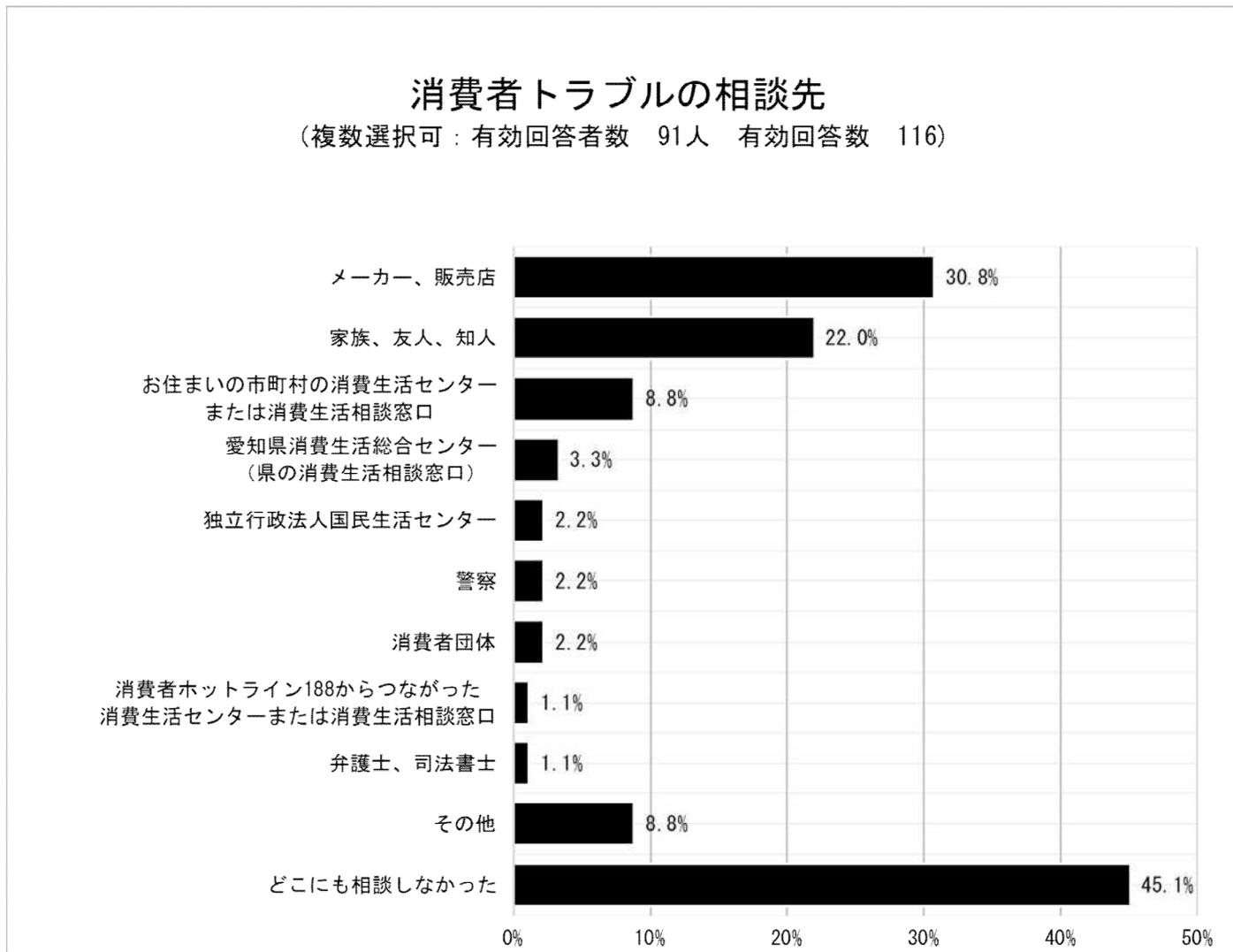


【問2】 問1で「トラブルに遭遇した」と答えた方にお聞きします。

あなたは、その消費者トラブルについて、どこかに相談しましたか。(複数選択可)

<回答結果>

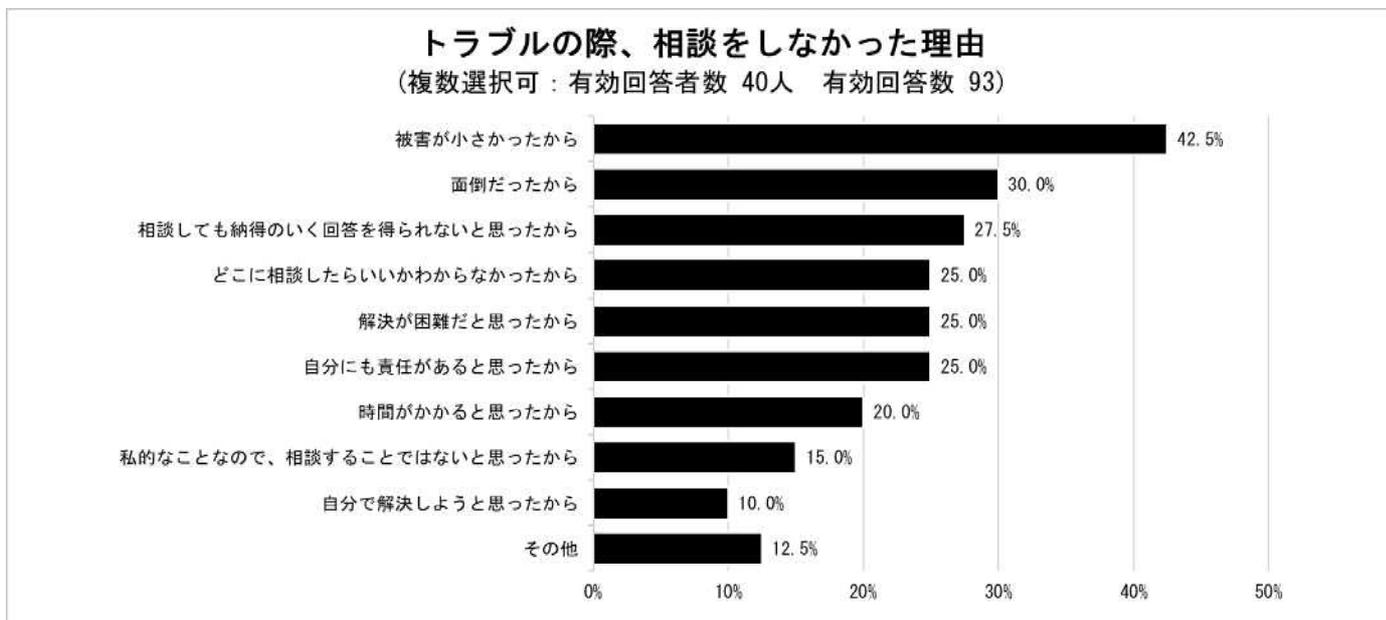
消費者トラブルの相談先について、「メーカー、販売店」が30.8%で最も多く、次いで「家族、友人、知人」が22.0%、「お住まいの市町村の消費生活センターまたは消費生活相談窓口」が8.8%の順であった。また、「どこにも相談しなかった」と回答した人は45.1%であった。



**【問3】** 問2で「どこにも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。  
あなたがどこにも相談しなかった理由は何ですか。(複数選択可)

<回答結果>

トラブルの際、相談をしなかった理由について、「被害が小さかったから」が42.5%で最も多く、次いで「面倒だったから」が30.0%、「相談しても納得のいく回答を得られないと思ったから」が27.5%であり、続いて「どこに相談したらいいかわからなかったから」、「解決が困難だと思ったから」、「自分にも責任があると思ったから」が25.0%で並んだ。



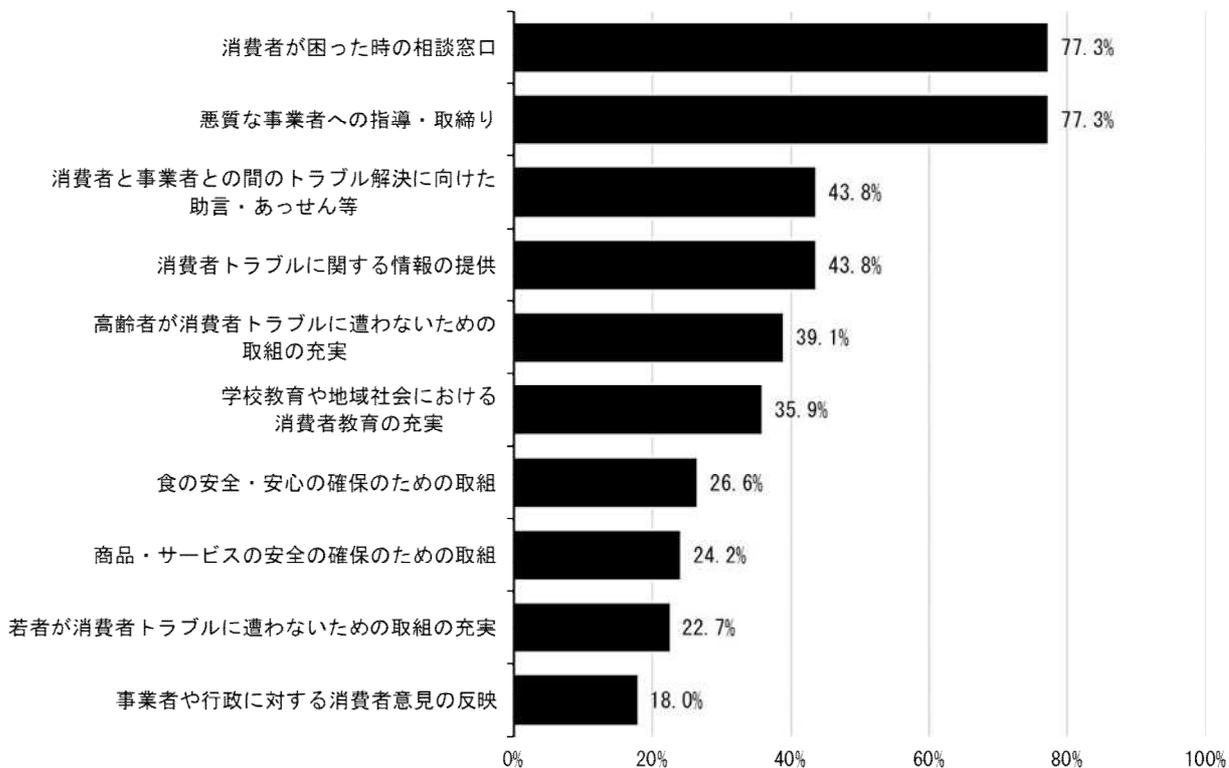
【問4】 愛知県では、「消費者が安心して安全で豊かな消費生活を営むことができる社会の実現」に向けて、消費者行政に取り組んでいます。

あなたは、こうした社会の実現のために何が必要だと思いますか。（五つまで選択可）

＜回答結果＞

安全で豊かな消費生活を営むことができる社会の実現のために必要なものについて、「消費者が困った時の相談窓口」、「悪質な事業者への指導・取締り」が77.3%で並び、次いで「消費者と事業者との間のトラブル解決に向けた助言・あっせん等」、「消費者トラブルに関する情報の提供」が43.8%で並んだ。

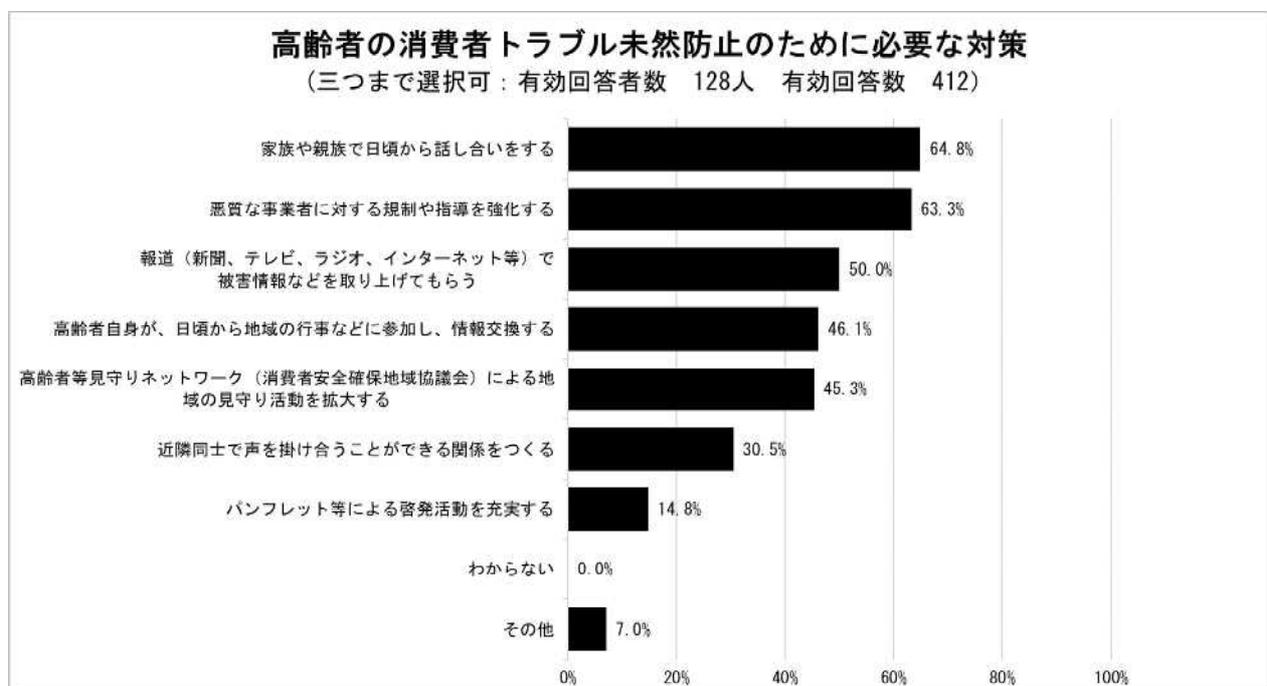
安全で豊かな消費生活を営むことができる  
社会の実現のために必要なものについて  
(五つまで選択可：有効回答者数 128人 有効回答数 523)



【問5】 近年、高齢者を狙った悪質な商法による消費者トラブルが多くなっています。高齢者が消費者トラブルに遭わないためには、あなたはどのような対策が有効だと思いますか。（複数選択可）

<回答結果>

高齢者の消費者トラブル未然防止のために必要な対策について、「家族や親族で日頃から話し合いをする」が64.8%と最も多く、次いで「悪質な事業者に対する規制や指導を強化する」が63.3%、「報道（新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等）で被害情報などを取り上げてもらう」が50.0%。「高齢者自身が、日頃から地域の行事などに参加し、情報交換する」が46.1%の順であった。



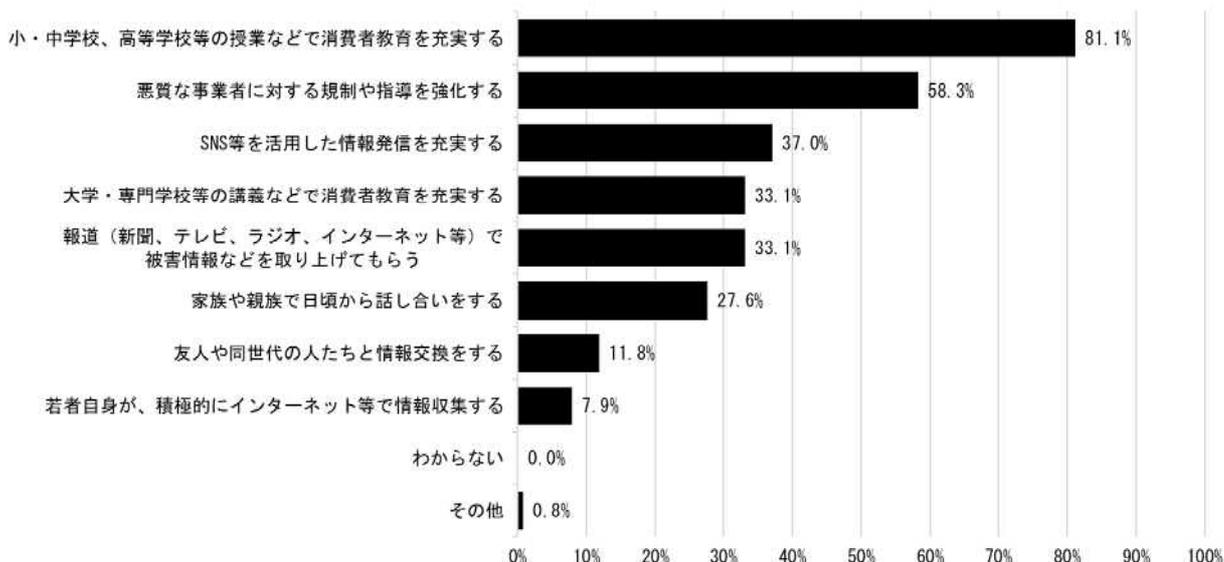
**【問6】** 成年年齢の引き下げにより、特に18歳・19歳の消費者トラブルの増加が懸念されています。若者が消費者トラブルに遭わないためには、あなたはどのような対策が有効だと思いますか。(三つまで選択可)

<回答結果>

若者の消費者トラブル未然防止のために必要な対策について、「小・中学校、高等学校等の授業などで消費者教育を充実する」が81.1%と最も多く、「悪質な事業者に対する規制や指導を強化する」が58.3%、「SNS等を活用した情報発信を充実する」が37.0%と続き、「大学・専門学校等の講義などで消費者教育を充実する」、「報道（新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等）で被害情報などを取り上げてもらう。」が33.1%で並んだ。

**若者の消費者トラブル未然防止のために必要な対策**

(三つまで選択可：有効回答者数 127人 有効回答数 369)

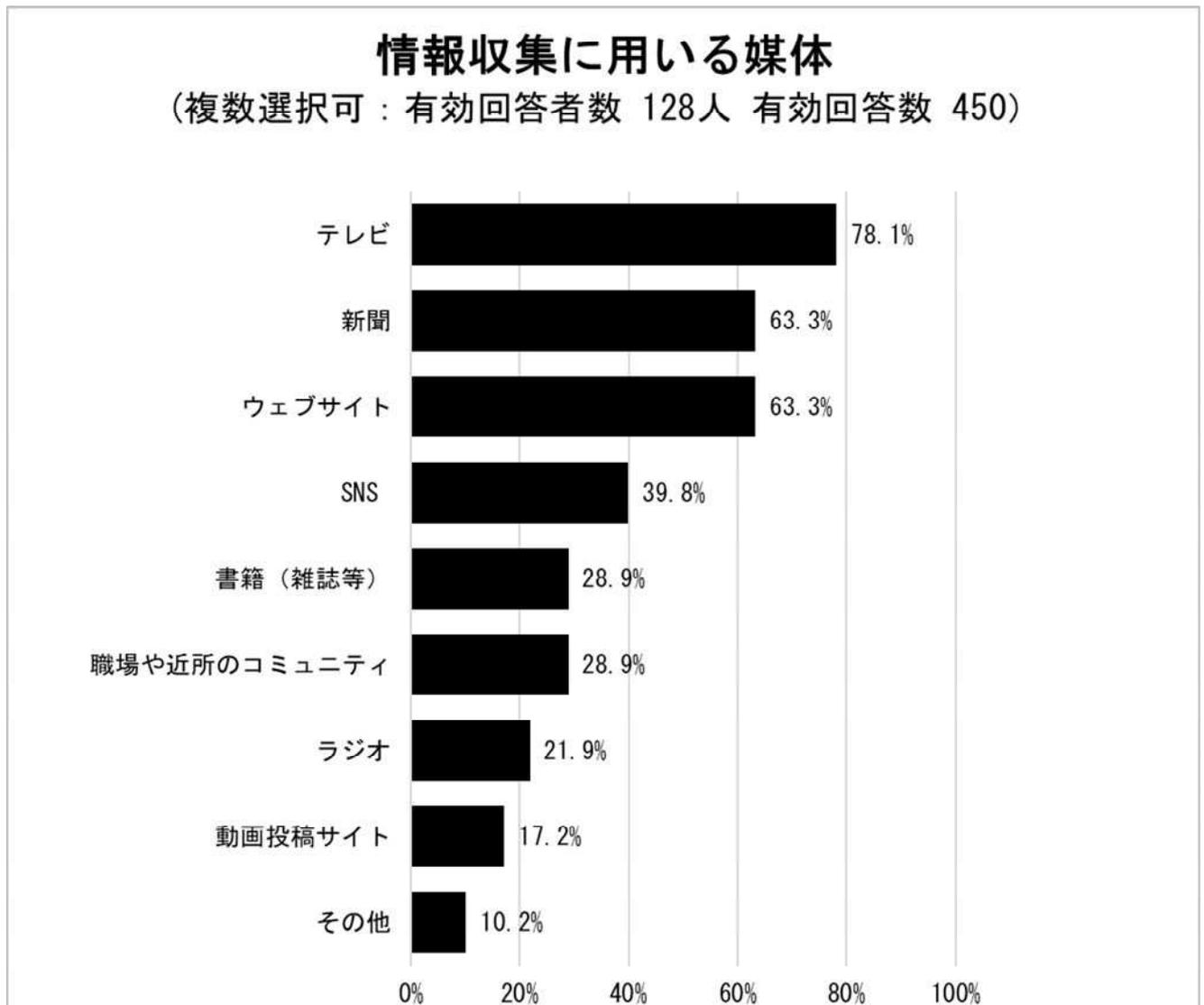


## 2 消費生活相談、消費者教育・啓発、情報提供事業について

【問7】 あなたは日頃、どのような媒体から情報収集していますか。（複数選択可）

<回答結果>

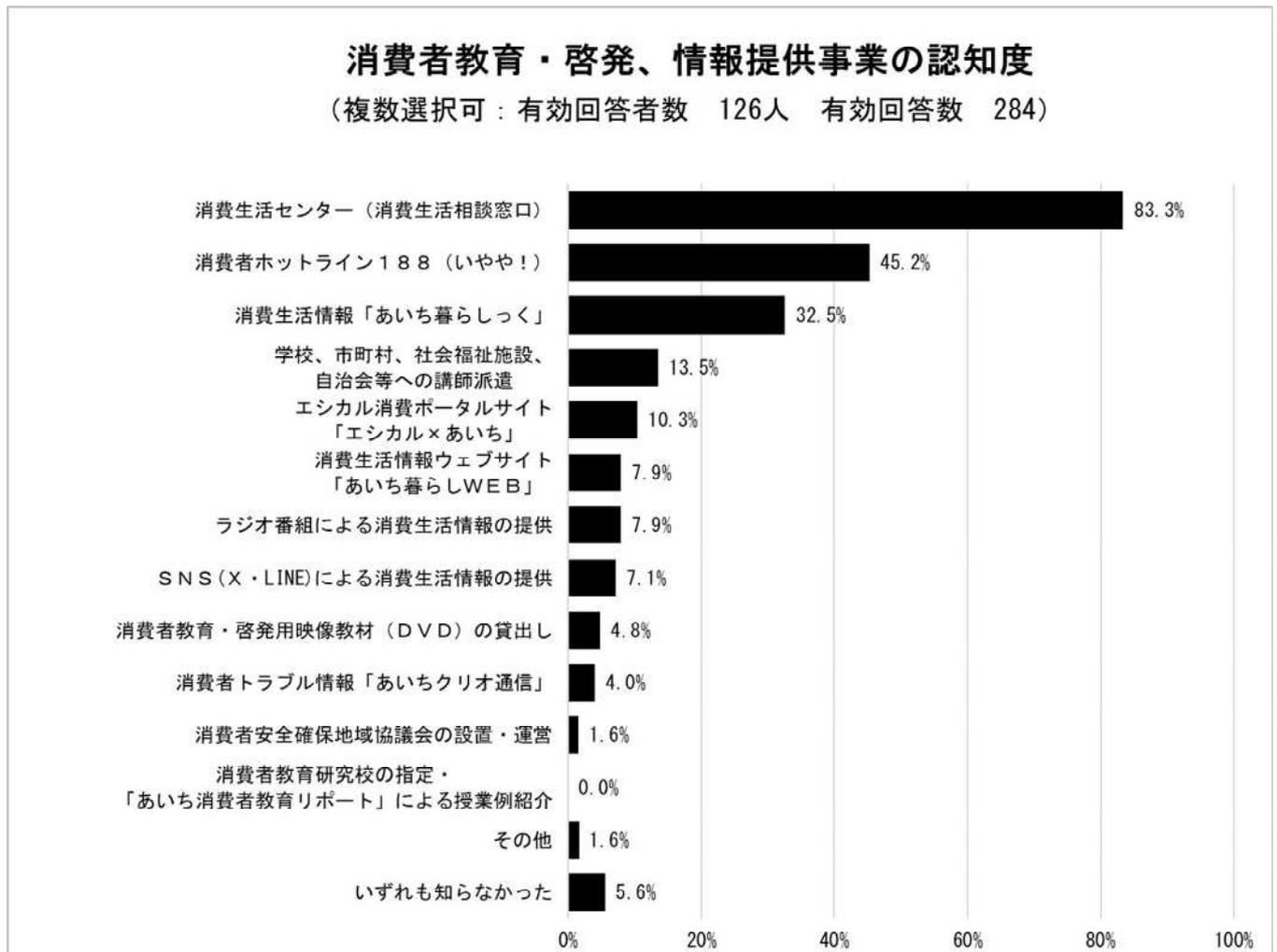
情報収集に用いる媒体について、「テレビ」が78.1%で最も多く、次いで「新聞」と「ウェブサイト」が63.3%で並び、「SNS」が39.8%の順であった。



**【問 8】** 消費生活センターの設置や、県（県民生活課）が行っている定例の消費者教育・啓発、情報提供事業について、消費生活モニターになる以前から知っていたものはありますか。知っていたものを回答してください。（複数選択可）

<回答結果>

消費者教育・啓発、情報提供事業について知っていたものは、「消費生活センター（消費生活相談窓口）」が 83.3%で最も多く、次いで「消費者ホットライン 188（いやや!）」が 45.2%，次いで「消費生活情報『あいち暮らしっく』」が 32.5%の順であった。また、「いずれも知らなかった」と答えた人は 5.6%であった。

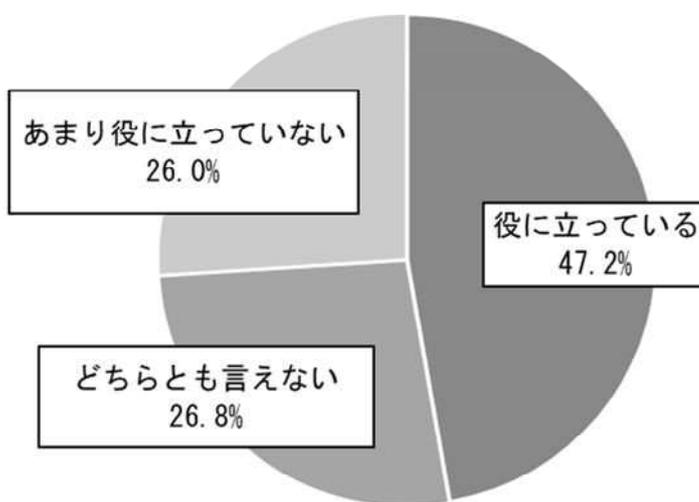


【問9】 県が行っている消費者教育・啓発、情報提供事業について、消費生活の安定や向上に役立っていると思いますか。(一つ選択)

<回答結果>

県が行っている消費者教育・啓発、情報提供事業については、「役に立っている」が47.2%で最も多く、次いで「どちらとも言えない」が26.8%、「あまり役に立っていない」が26.0%の順であった。

### 消費者教育・啓発、情報提供事業の効果 (有効回答者数 127人)



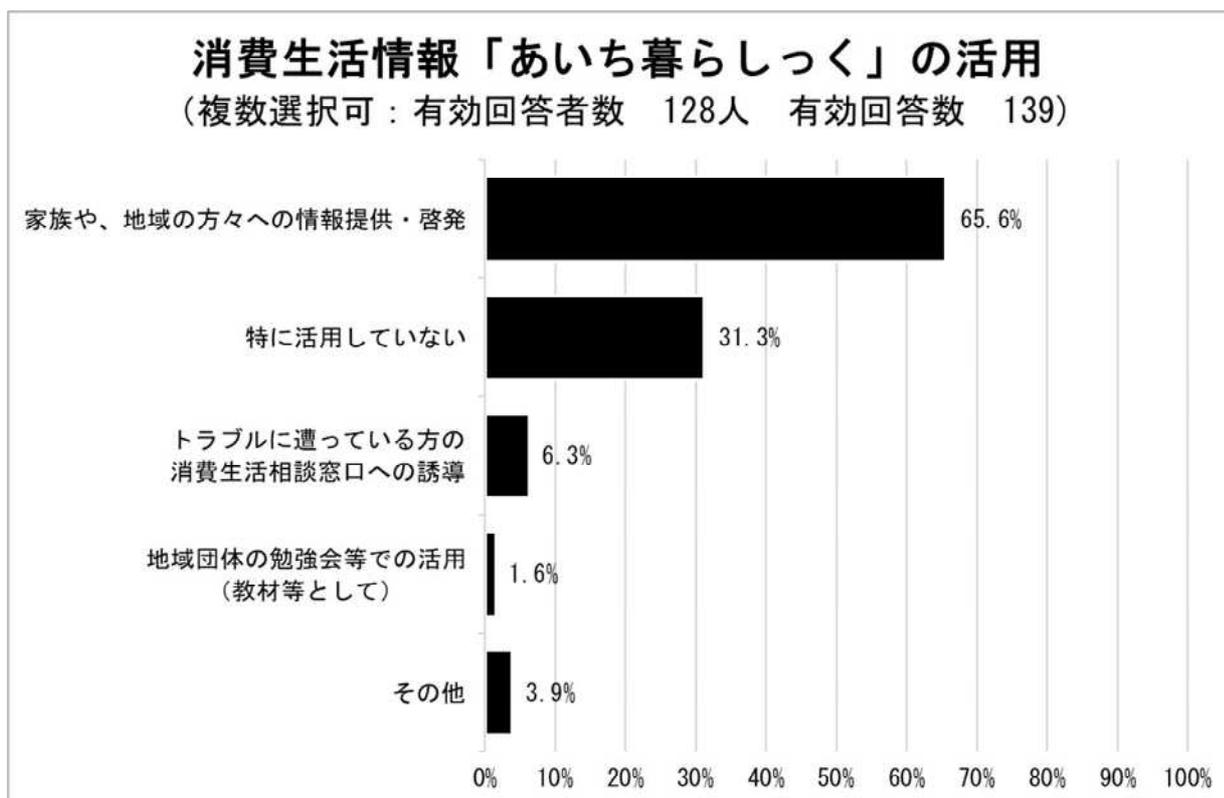
「あまり役に立っていない」理由としては、「世間一般に知られていない」、「話題に上がらない」などが挙げられた。

また、その改善策としては、「地下鉄・バスなど日ごろから目につく所（掲示板など）にポスター・広告を貼る」、「広報あいちを活用して周知する」などが挙げられた。

【問 10】 県では消費生活情報「あいち暮らしっく」を年に6回配信し、消費生活モニターの皆様に郵送させていただいておりますが、どのように御活用いただいておりますか。（複数選択可）

<回答結果>

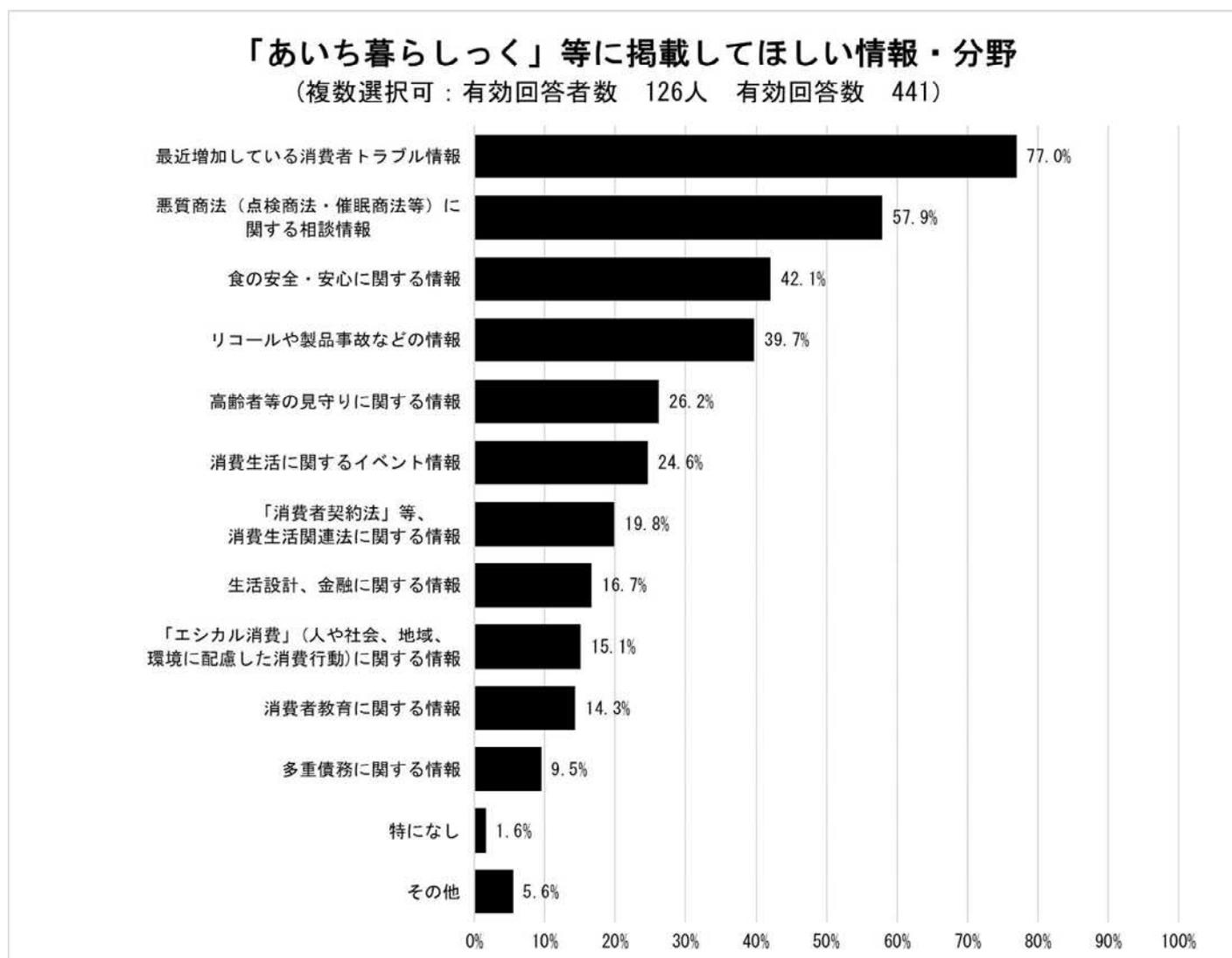
消費生活情報「あいち暮らしっく」の活用方法について、「家族や地域の方々への情報提供・啓発」が65.6%で最も多く、次いで「特に活用していない」が31.3%、「トラブルに逢っている方の消費生活相談窓口への誘導」が6.3%の順で、「地域団体の勉強会等での活用（教材等として）」は1.6%の順であった。



【問 11】 消費生活情報「あいち暮らしっく」等の啓発物に掲載してほしい消費生活の情報・分野は何ですか。（複数選択可）

<回答結果>

消費生活情報「あいち暮らしっく」等の啓発物に掲載してほしい消費生活の情報・分野は、「最近増加している消費者トラブル情報」が77.0%で最も多く、次いで「悪質商法（点検商法・催眠商法等）に関する相談情報」が57.9%、「食の安全・安心に関する情報」が42.1%の順であった。



【問 12】 県の消費生活情報ウェブサイト「あいち暮らしWEB」(https://www.pref.aichi.jp/kenmin/shohiseikatsu/information/kurassic.html)及び、エシカル消費ポータルサイト「エシカル×あいち」(https://www.pref.aichi.jp/kenmin/ethical/)について、どの情報をよくご覧になりますか。(複数選択可)

また、『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがない や、『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない を選択された場合、その理由を記入してください。

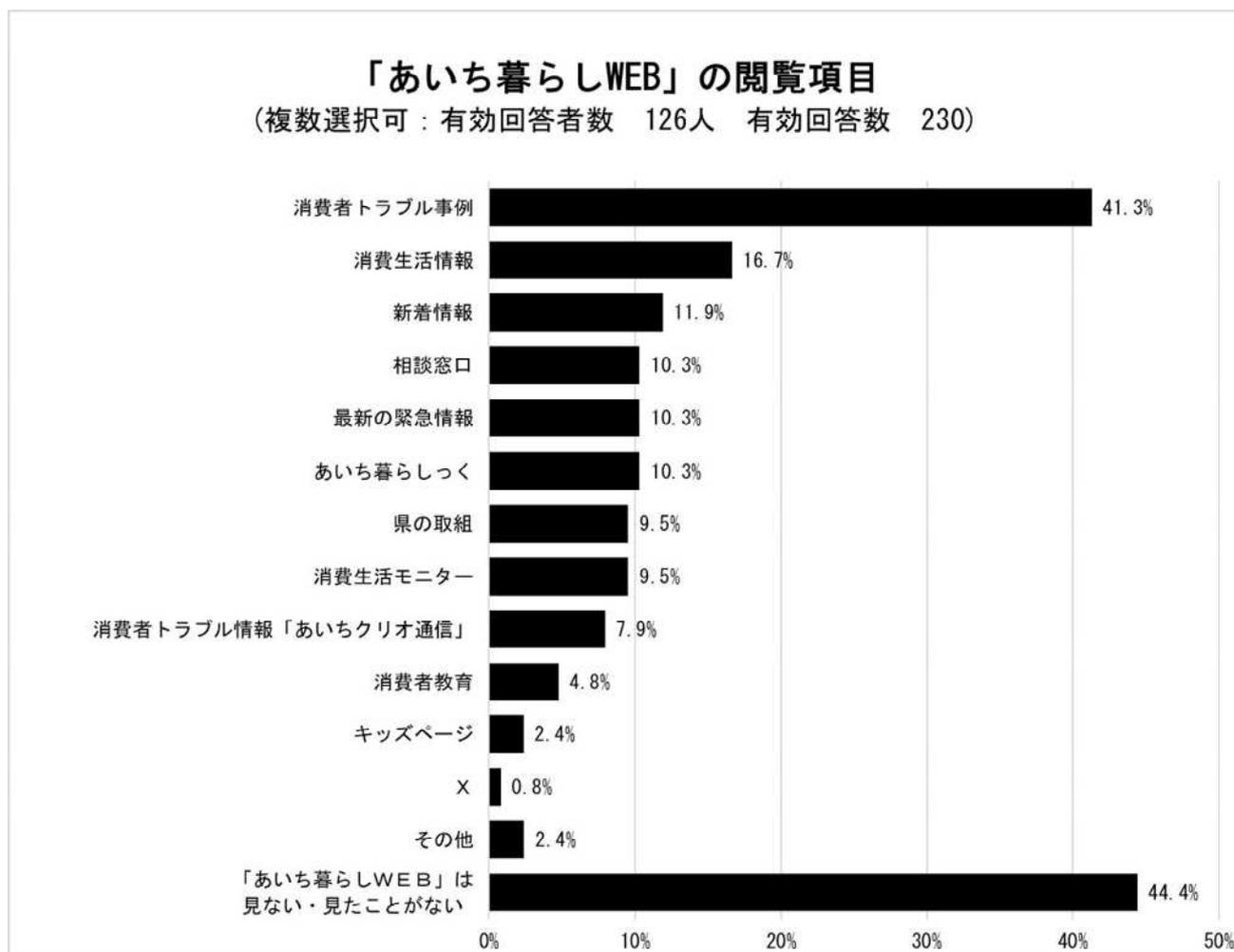
<回答結果>

【県の消費生活情報 WEB サイト「あいち暮らしWEB」について】

「あいち暮らし WEB」でよく見られている情報は、「消費者トラブル事例」が 41.3%で最も多く、次いで「消費生活情報」が 16.7%、「新着情報」が 11.9%の順であった。

一方、回答者の 44.4%は『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがないと回答した。

『あいち暮らし WEB』は見ない・見たことがない理由については、「存在を知らなかった」、「パソコンやスマホを所有していない」などであった。



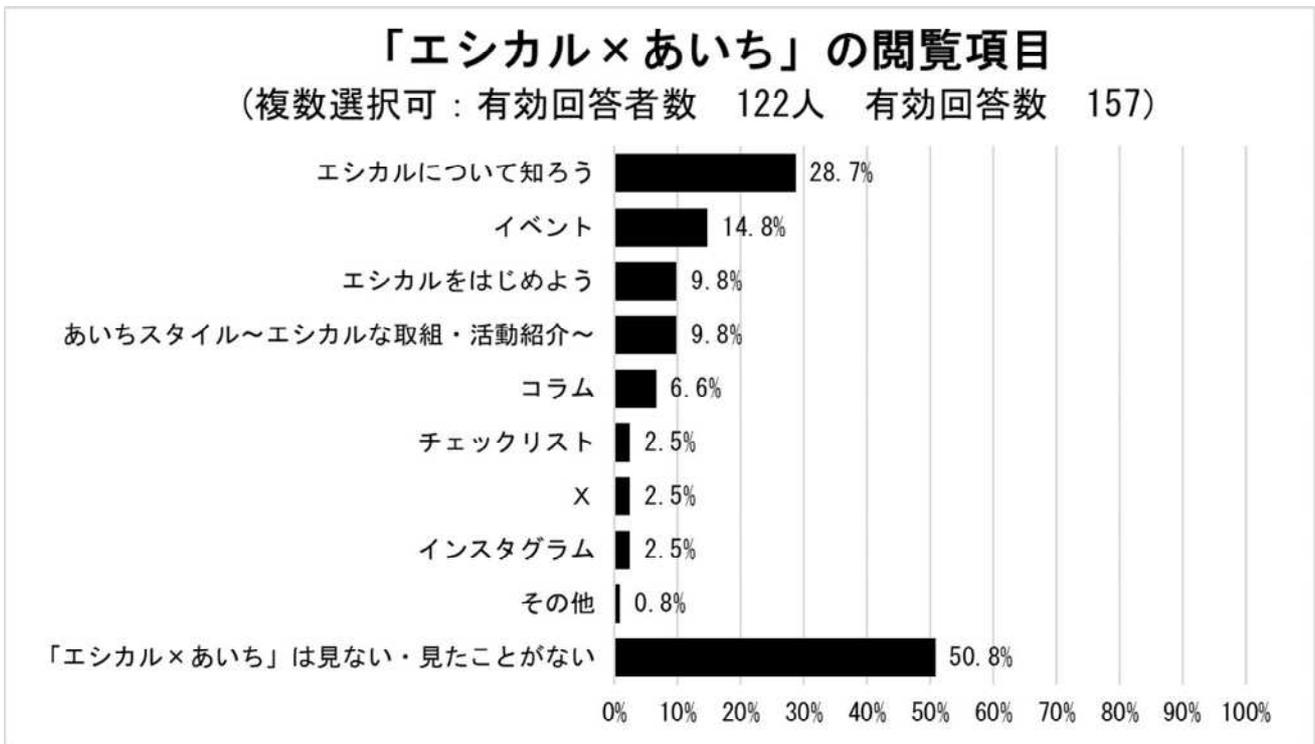
<回答結果>

【エシカル消費ポータルサイト「エシカル×あいち」について】

「エシカル消費ポータルサイト『エシカル×あいち』」でよく見られている情報は、「エシカルについて知ろう」が28.7%で最も多く、次いで「イベント」が14.8%、「エシカルをはじめよう」と「あいちスタイル～エシカルな取り組み・活動紹介～」が9.8%の順であった。

一方、『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない」と回答した人は50.8%であった。

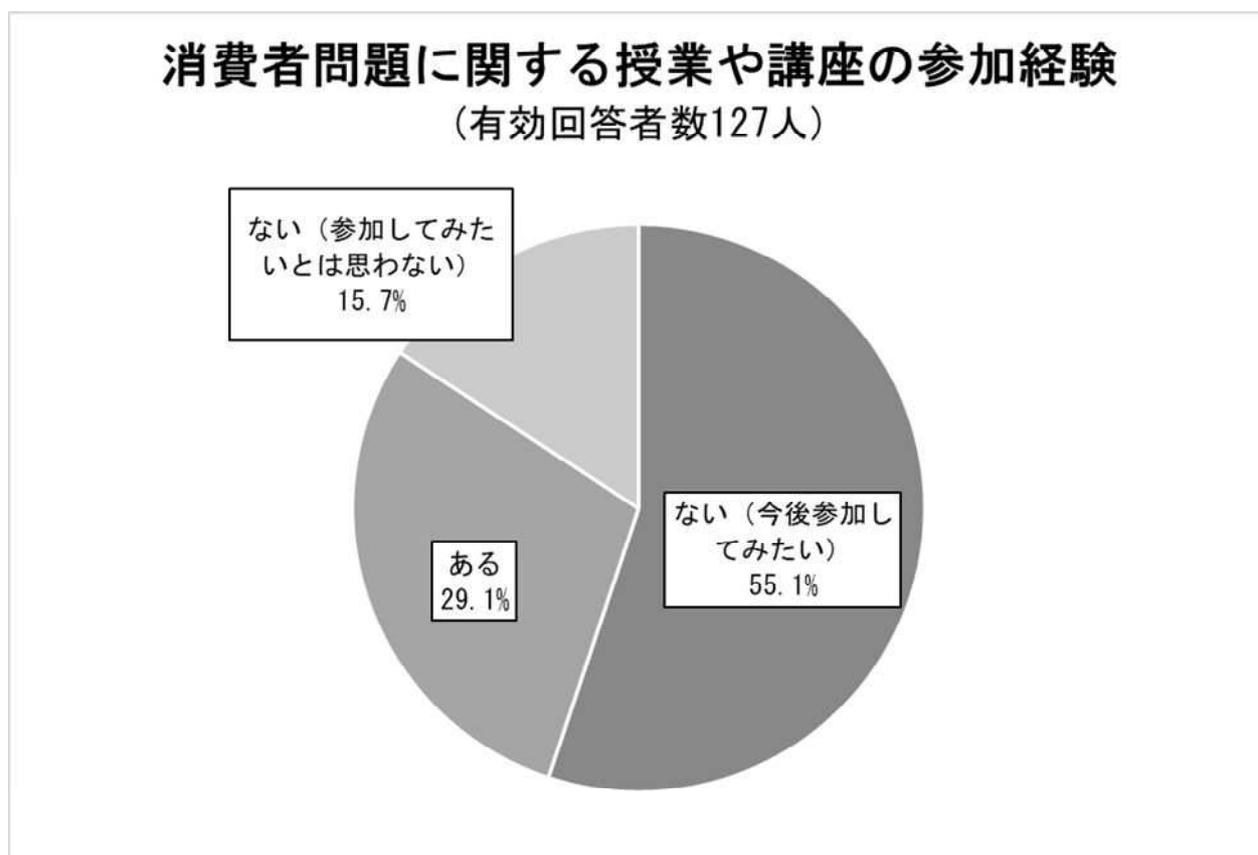
『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない」理由については、「知らなかった」、「自身の周囲でエシカルが話題になることがない」などがあつた。



【問 13】 消費生活に関する授業を受けたり、講座に参加したことはありますか。また、「ない（参加してみたいとは思わない）」を選択された場合、その理由を教えてください。（一つ選択）

<回答結果>

消費者問題に関する授業や講座の参加経験は、「ない（今後参加してみたい）」が 55.1%で最も多く、次いで「ある」29.1%、「ない（参加してみたいとは思わない）」15.7%の順であった。



参加してみたいとは思わない理由については、「近隣で講座等が実施されていないため」が 7 名で最も多く、「内容が難しそうであるため」が 4 名、「消費者被害の未然防止に有効であるとは思えないため」が 2 名であった。

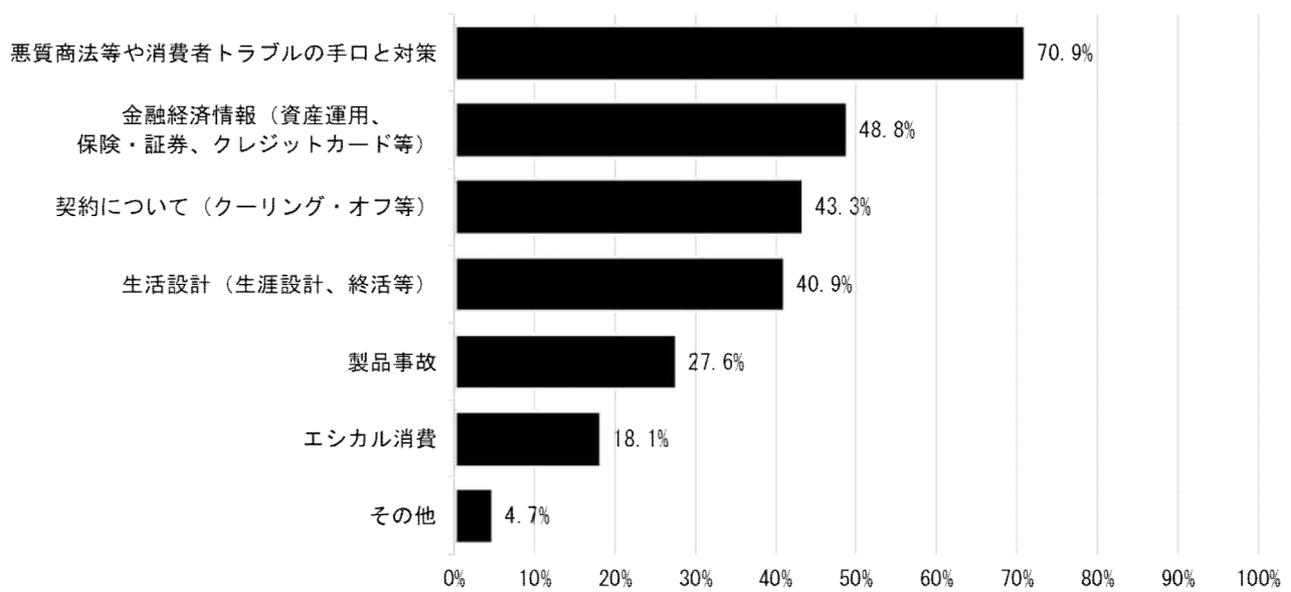
【問 14】 あなたが消費生活に関する授業や講座を受ける場合、どのようなテーマの受講を希望しますか。(複数選択可)

<回答結果>

消費者問題に関する授業や講座の希望受講テーマは、「悪質商法等や消費者トラブルの手口と対策」が70.9%で最も多く、次いで「金融経済情報（資産運用、保険・証券、クレジットカード等）」が48.8%、「契約について（クーリング・オフ等）」が43.3%、生活設計（生涯設計、終活等）が40.9%の順であった。

### 消費生活に関する授業や講座について受講を希望するテーマ

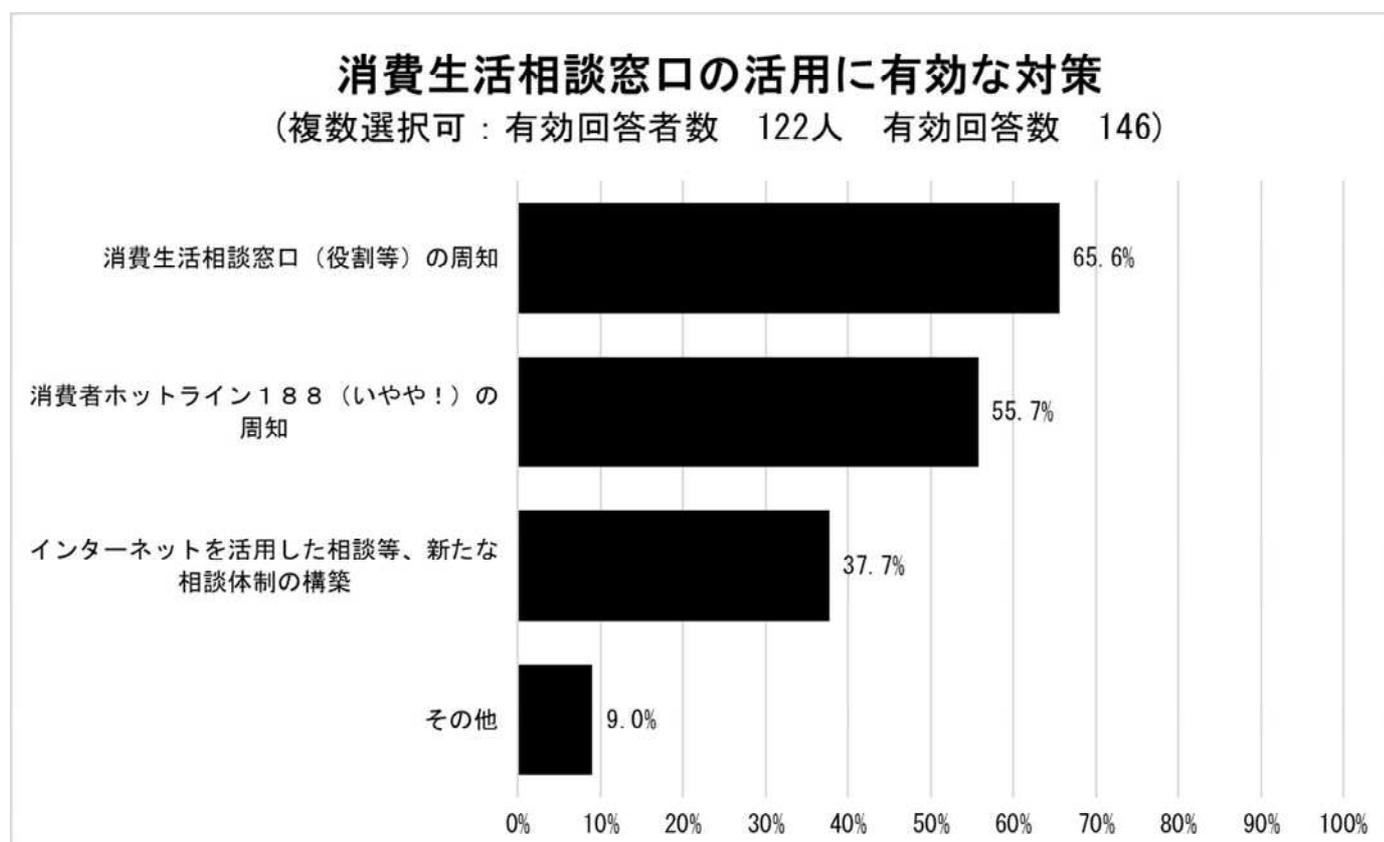
(複数選択可：有効回答者数 127人 有効回答数 323)



【問 15】 消費者被害に遭われた方のうち、より多くの方が消費生活相談窓口へ相談するためには、どのような対策が有効であると思いますか。（複数選択可）

<回答結果>

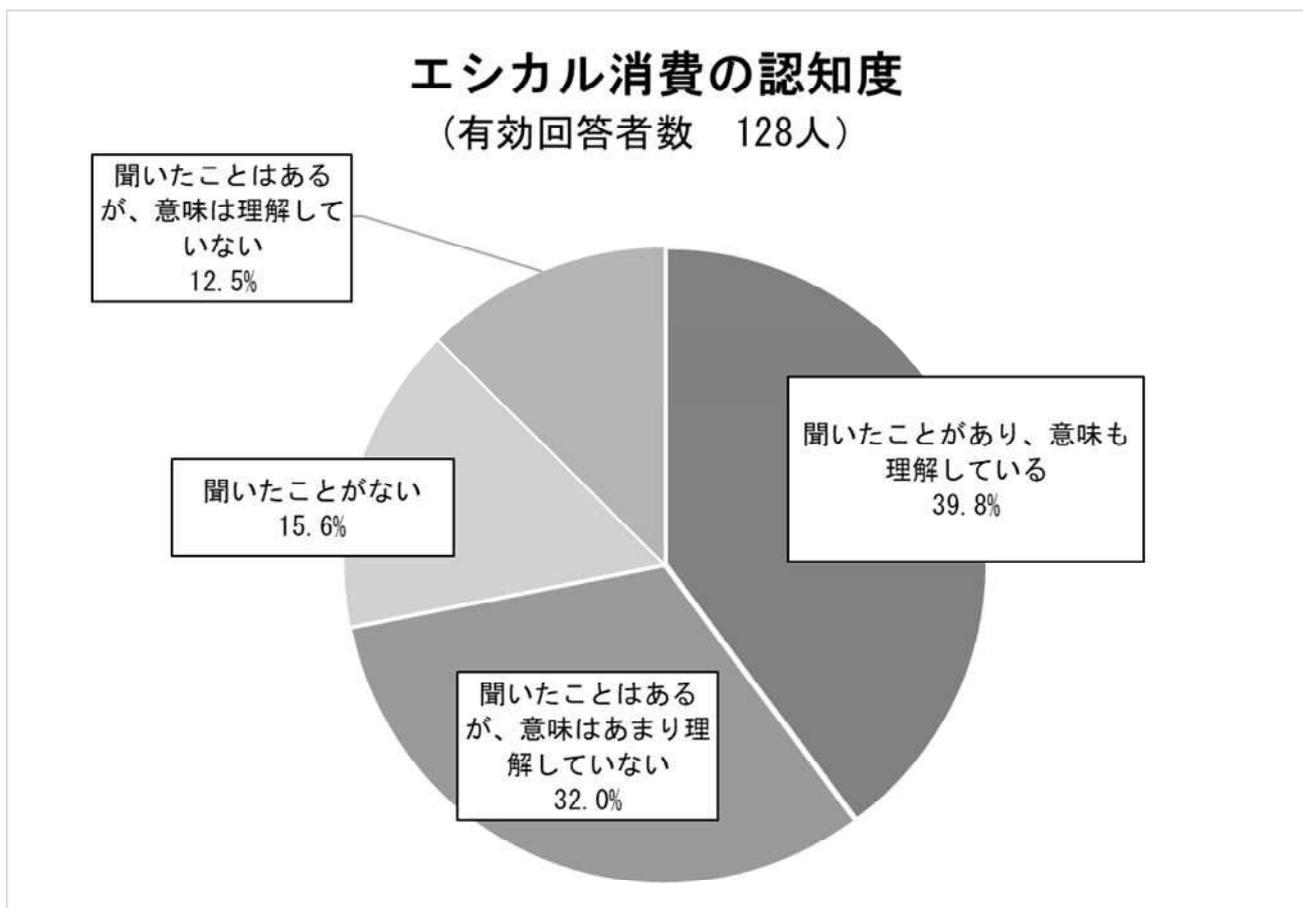
消費生活相談窓口の活躍に有効な対策は、「消費生活相談窓口（役割等）の周知」が 65.6%で最も多く、次いで「消費者ホットライン 188（いやや!）の周知」が 55.7%、「インターネットを活用した相談等、新たな相談体制の構築」が 37.7%の順であった。



【問 16】 「エシカル消費」という言葉を聞いたことがありますか。

<回答結果>

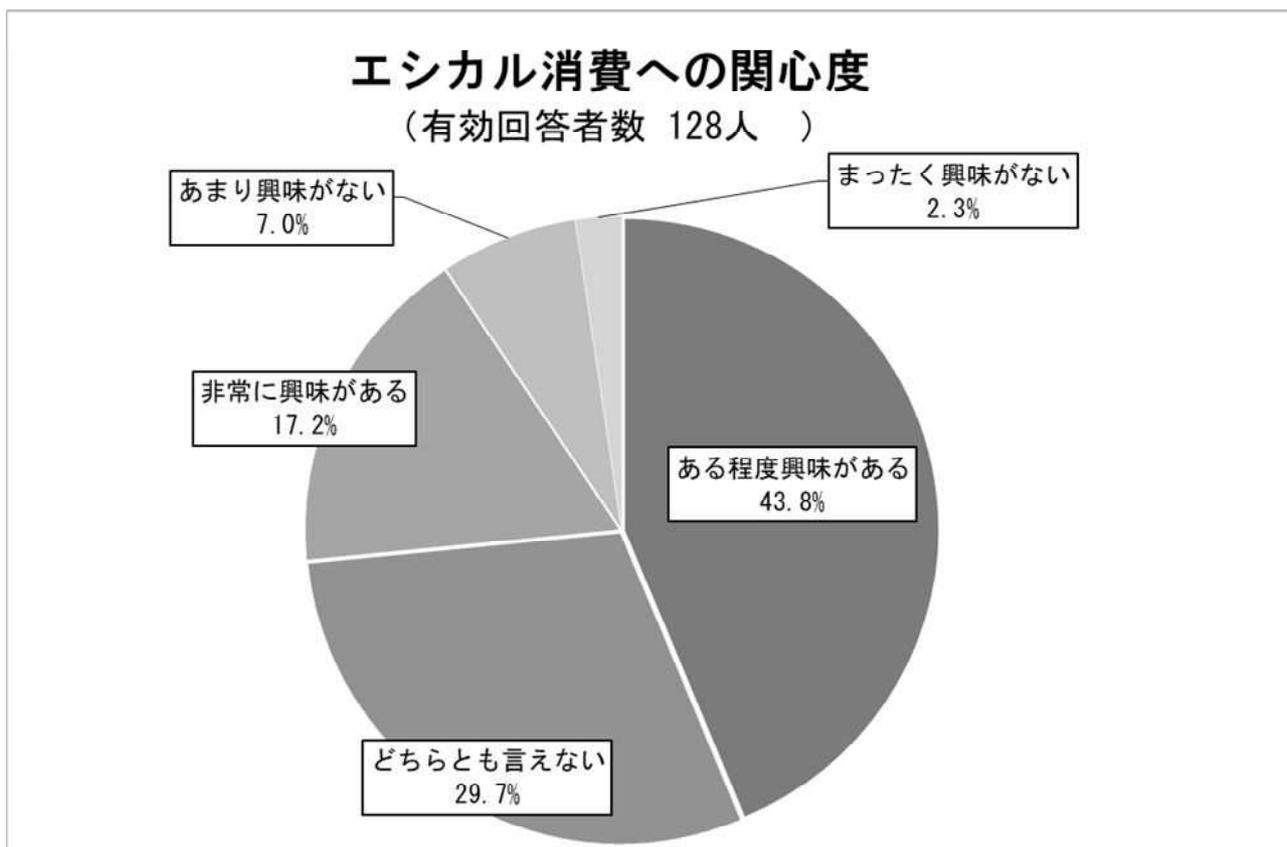
エシカル消費の認知度について、「聞いたことがあります、意味も理解している」が 39.8%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが、意味はあまり理解していない」が 32.0%、「聞いたことがない」が 15.6%、「聞いたことはあるが、意味は理解していない」が 12.5%の順であった。



【問 17】 「エシカル消費」について、どの程度興味がありますか。

<回答結果>

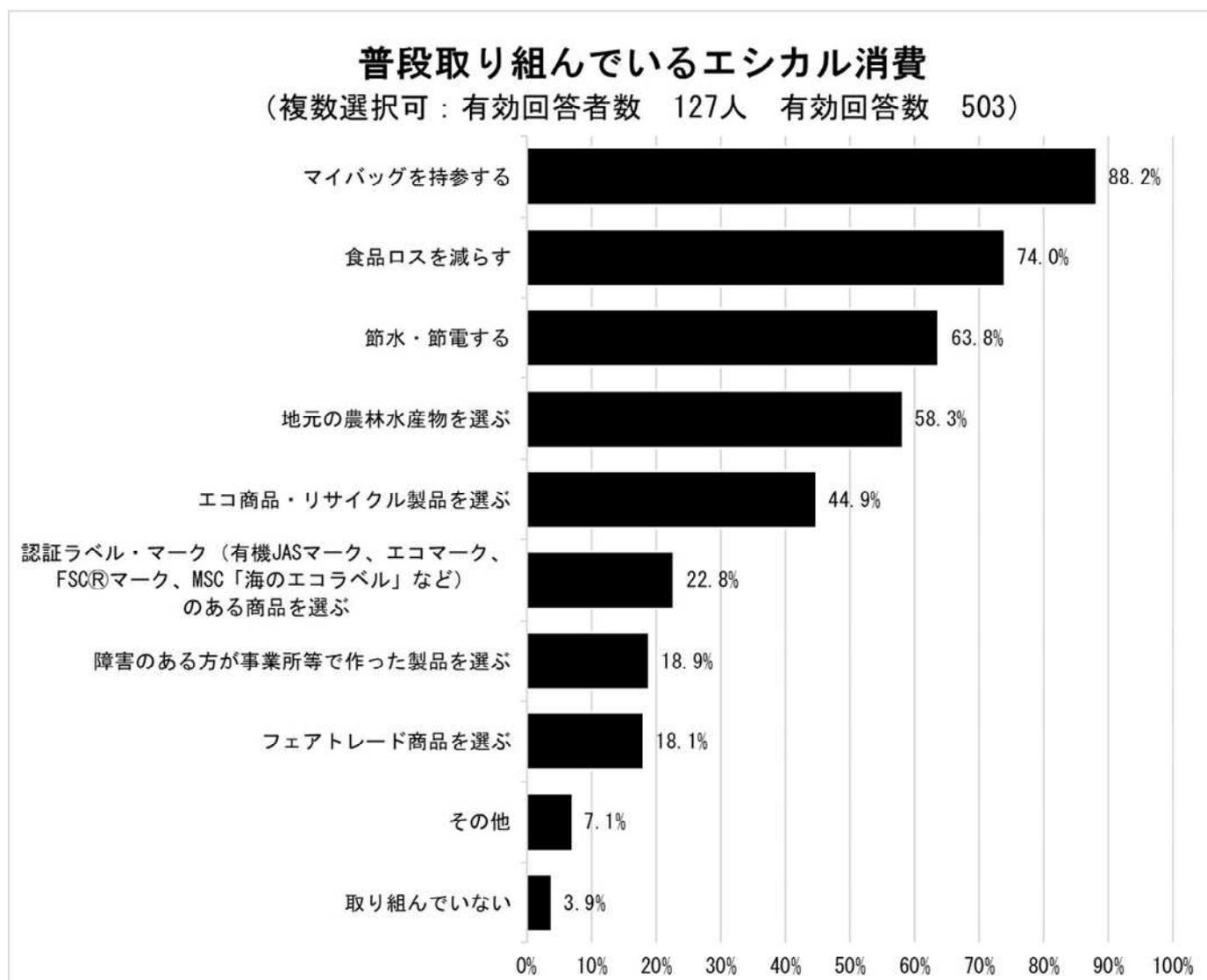
エシカル消費への関心度について、「ある程度興味がある」が、43.8%で最も多く、「どちらとも言えない」が29.7%、「非常に興味がある」が17.2%、「あまり興味がない」が7.0%の順であった。また、「まったく興味がない」と回答した人は2.3%であった。



【問 18】 普段の生活の中で取り組んでいる「エシカル消費」は何ですか。（複数選択可）  
また、「取り組んでいない」を選択された場合、その理由を記入してください。

<回答結果>

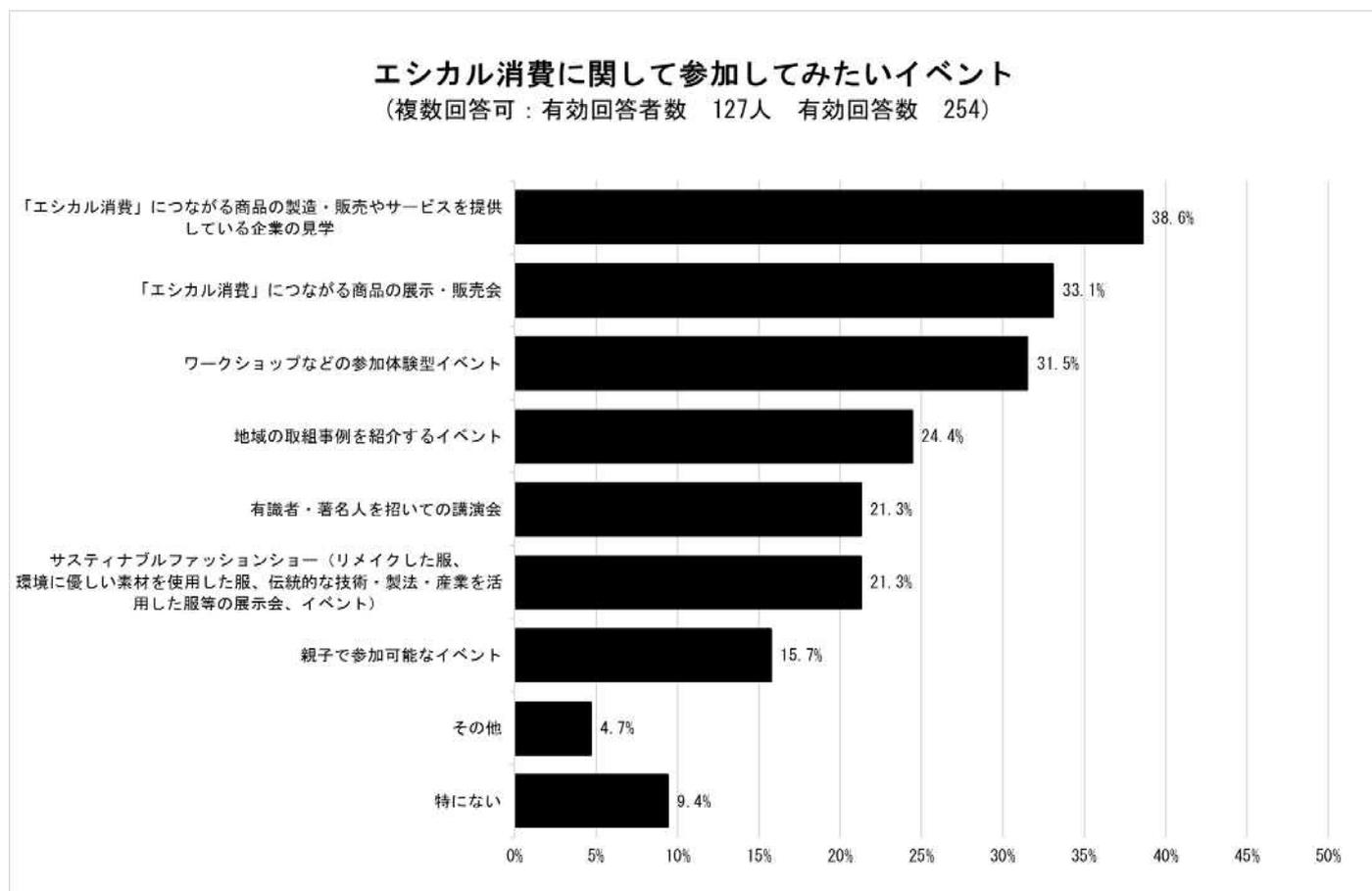
普段取り組んでいるエシカル消費については、「マイバックを持参する」が 88.2%で最も多く、次いで「食品ロスを減らす」が 74.0%、「節水・節電する」が 63.8%の順であった。また、「取り組んでいない」と回答した人は 3.9%であった。



【問 19】 「エシカル消費」に関して、今後参加してみたいイベント等がありますか。

<回答結果>

エシカル消費に関して参加してみたいイベントについて、『エシカル消費』につながる商品の製造・販売やサービスを提供している企業の見学が 38.6%で最も多く、次いで『エシカル消費』につながる食品の展示・販売会が 33.1%、「ワークショップなどの参加体験型イベント」が 31.5%の順であった。また、「特にない」と回答した人は 9.4%であった。



### 3 食の安全・安心について

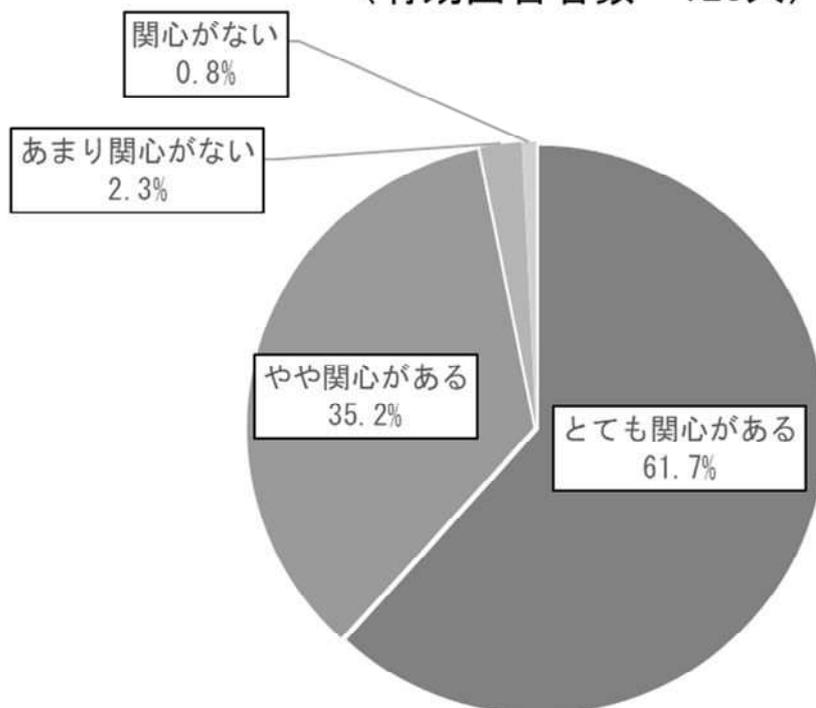
【問 20】 食の安全に関する取組について、どの程度関心を持っていますか。(一つ選択)

<回答結果>

食の安全に対する取組については、「とても関心がある」が 61.7%で最も多く、次いで「やや関心がある」が 35.2%、「あまり関心がない」が 2.3%、「関心がない」が 0.8%の順であった。

#### 食の安全に関する取組への関心度

(有効回答者数 128人)

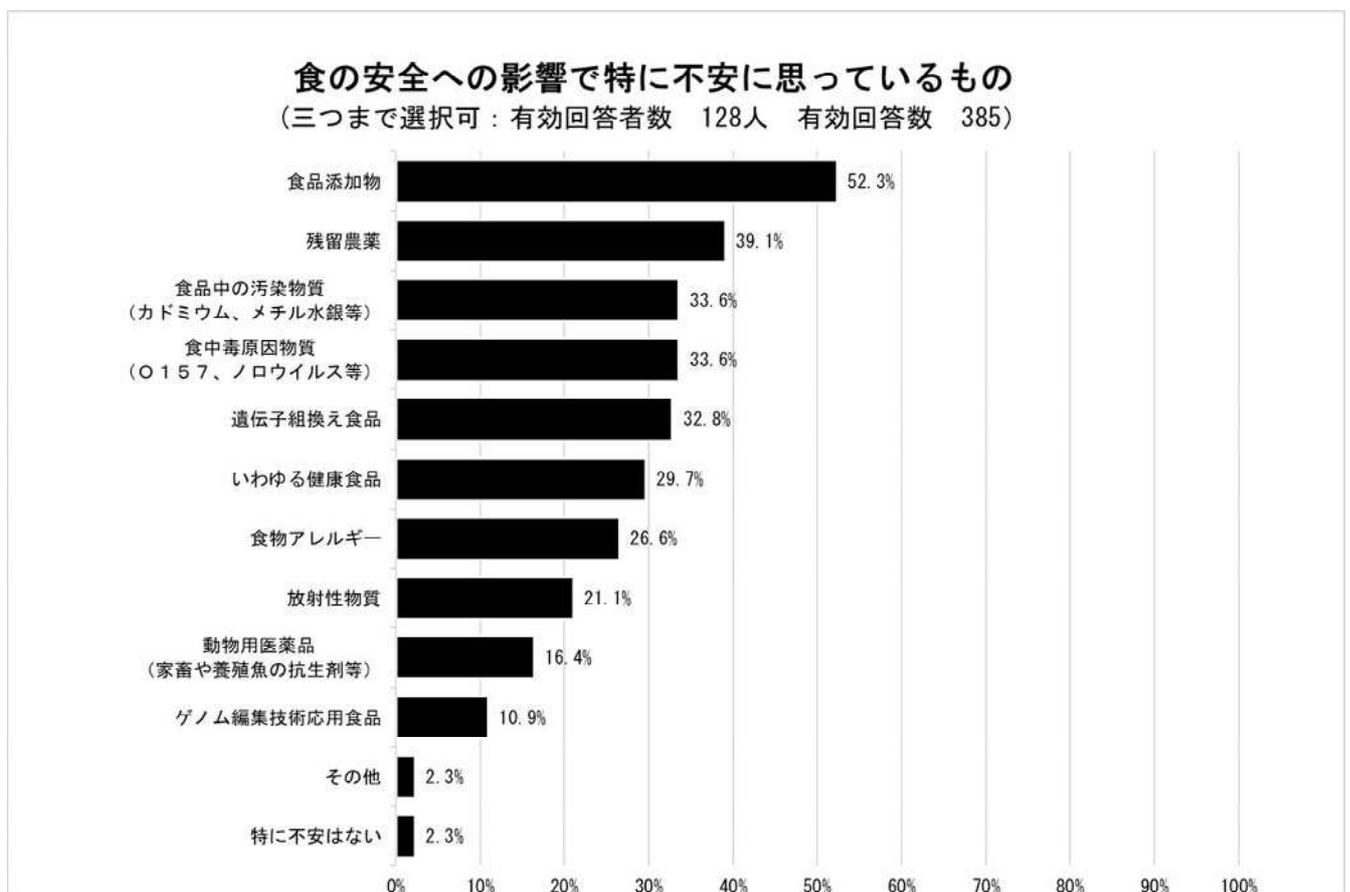


【問 21】 食の安全に影響を及ぼすものとして、特に不安に思っているものは何ですか。（三つまで選択可） また、「その他」を選択した場合、その内容を記入してください。

<回答結果>

食の安全に影響を及ぼすものとして特に不安に思っているものについて、「食品添加物」が 52.3%で最も多く、次いで「残留農薬」が 39.1%、「食品中の汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」と「食中毒原因物質（O157、ノロウイルス等）」が 33.6%の順であった。また、「特に不安はない」と回答した人は 2.3%であった。

「その他」の内容として、「温度、衛生管理の不備」等が挙げられた。

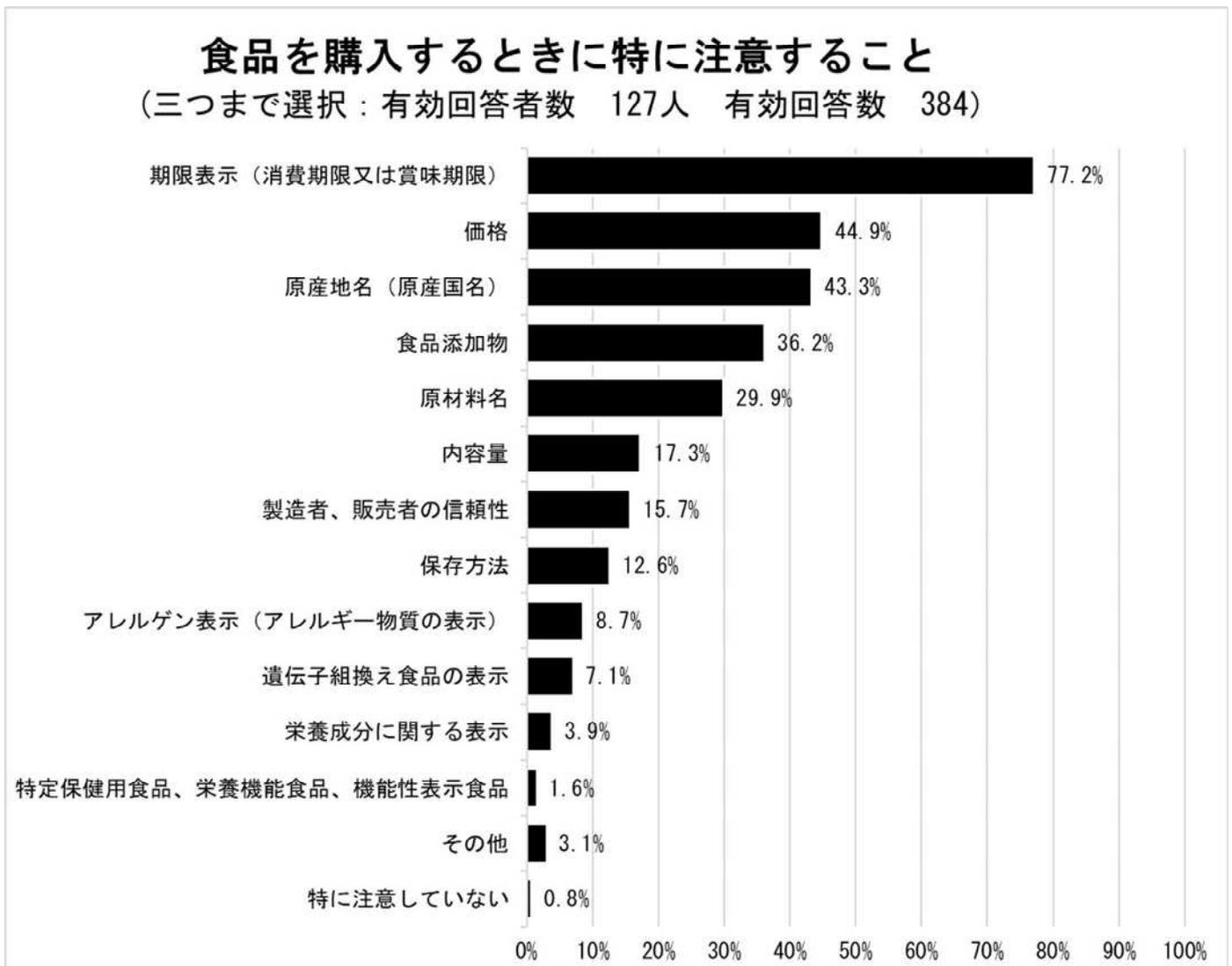


【問 22】 食品を購入するとき、注意していることは何ですか。（三つまで選択）また、「その他」を選択した場合、その内容を記入してください。

<回答結果>

食品を購入するとき特に注意するものについて、「期限表示（消費期限又は賞味期限）」が 77.2%で最も多く、次いで、「価格」が 44.9%、「原産地名（原産国名）」が 43.3%、「食品添加物」が 36.2%の順であった。

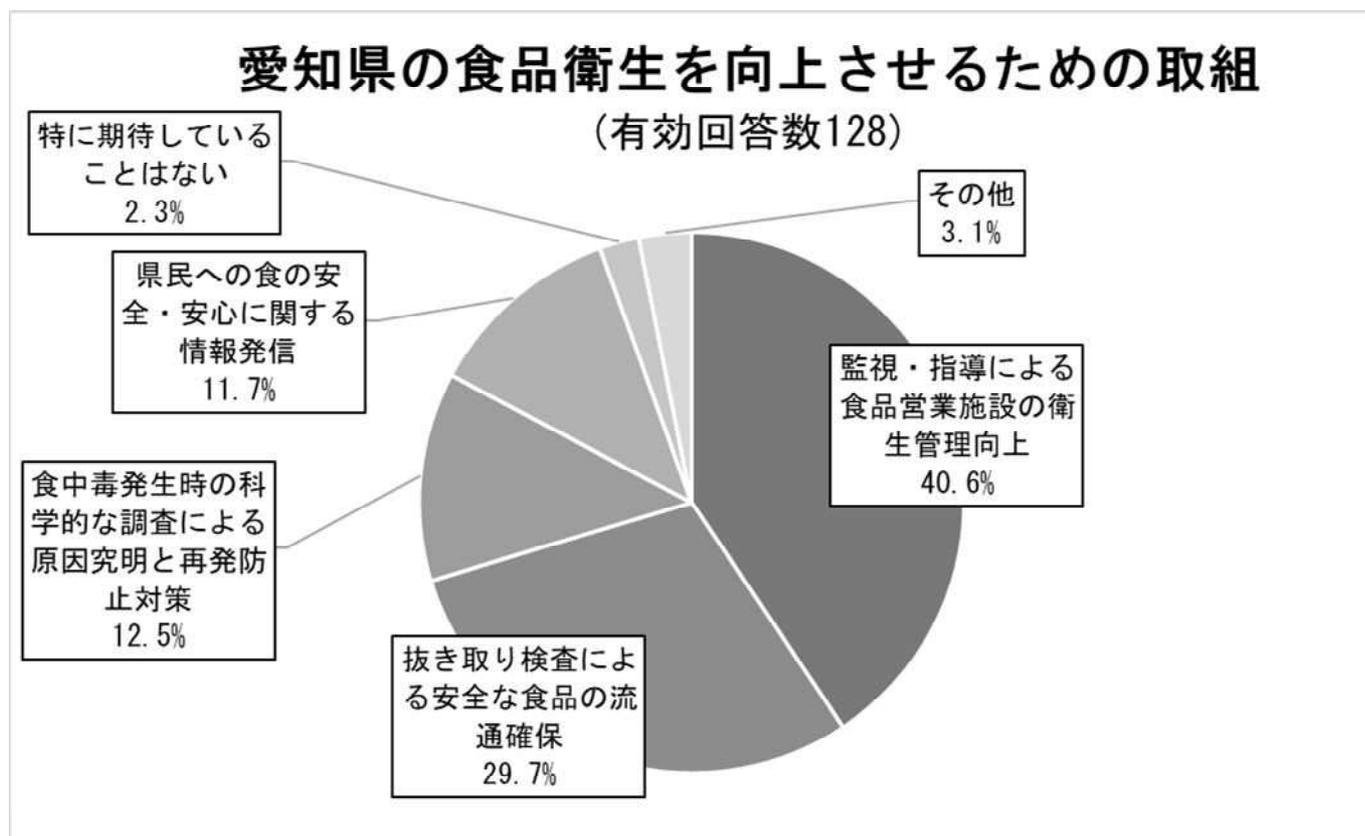
「その他」の内容としては、「見た目」、「カロリー」等が挙げられた。



【問 23】 愛知県が行う食品衛生を向上させるための取組として、最も重要と思うことは何ですか。  
(一つ選択)

<回答結果>

愛知県の食品衛生を向上させる取組として最も重要と考えているものは、「監視・指導による食品営業施設の衛生管理向上」が40.6%で最も多く、次いで「抜き取り検査による安全な食品の流通確保」が29.7%、「食中毒発生時の科学的な調査による原因究明と再発防止対策」が12.5%、「県民への食の安全、安心に関する情報発信」が11.7%の順であった。

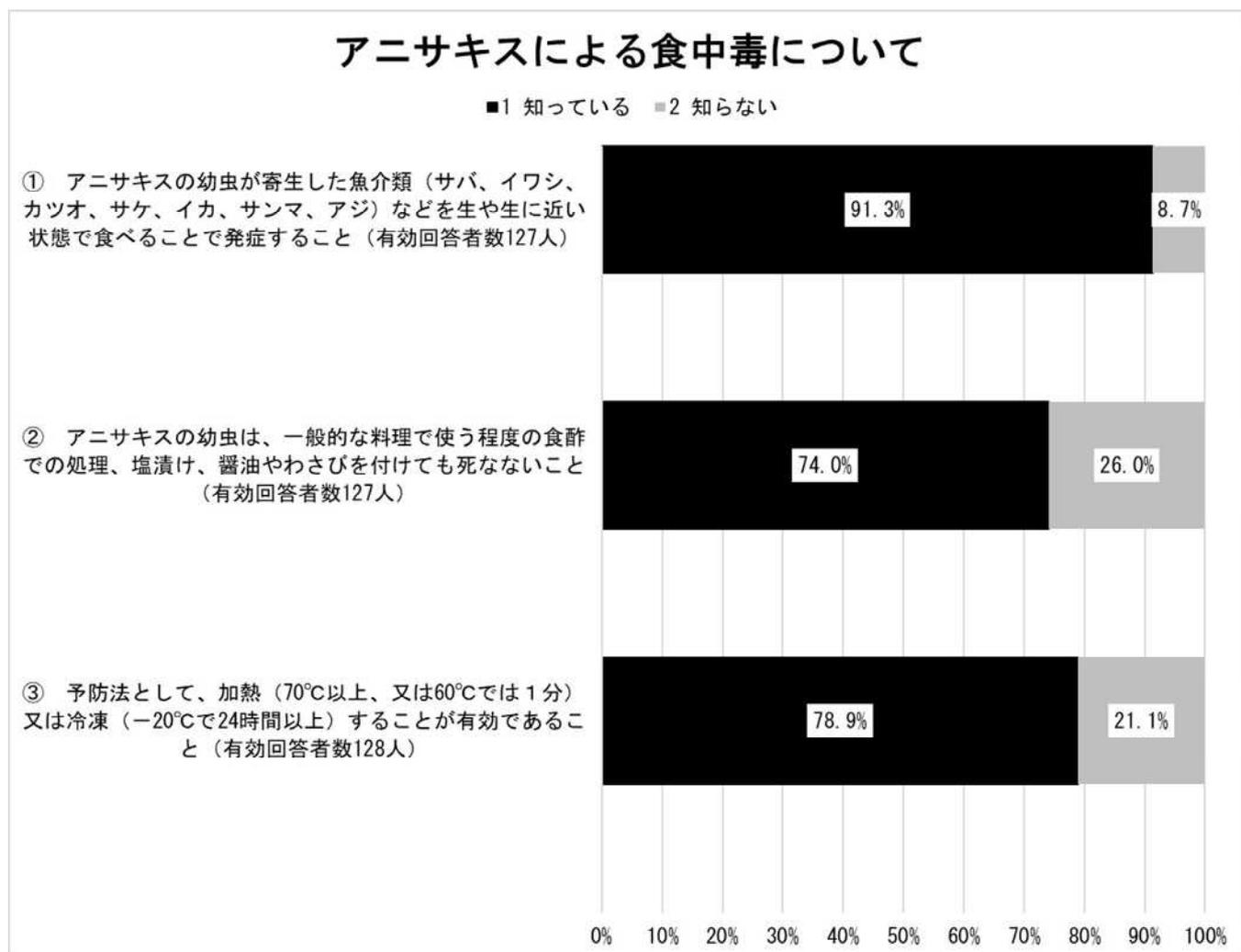


【問 24】 近年多発するアニサキスによる食中毒について、次のことを知っていますか。（各一つ選択）

- ① アニサキスの幼虫が寄生した魚介類（サバ、イワシ、カツオ、サケ、イカ、サンマ、アジ）などを生や生に近い状態で食べることで発症すること
- ② アニサキスの幼虫は、一般的な料理で使う程度の食酢での処理、塩漬、醤油やわさびを付けても死なないこと
- ③ 予防法として、加熱（70℃以上、又は 60℃では 1 分）又は冷凍（-20℃で 24 時間以上）することが有効であること

<回答結果>

アニサキスによる食中毒に関わる 3 つの項目について、「知っている」を回答した方は、① 91.3%、② 74.0%、③ 78.9%であった。

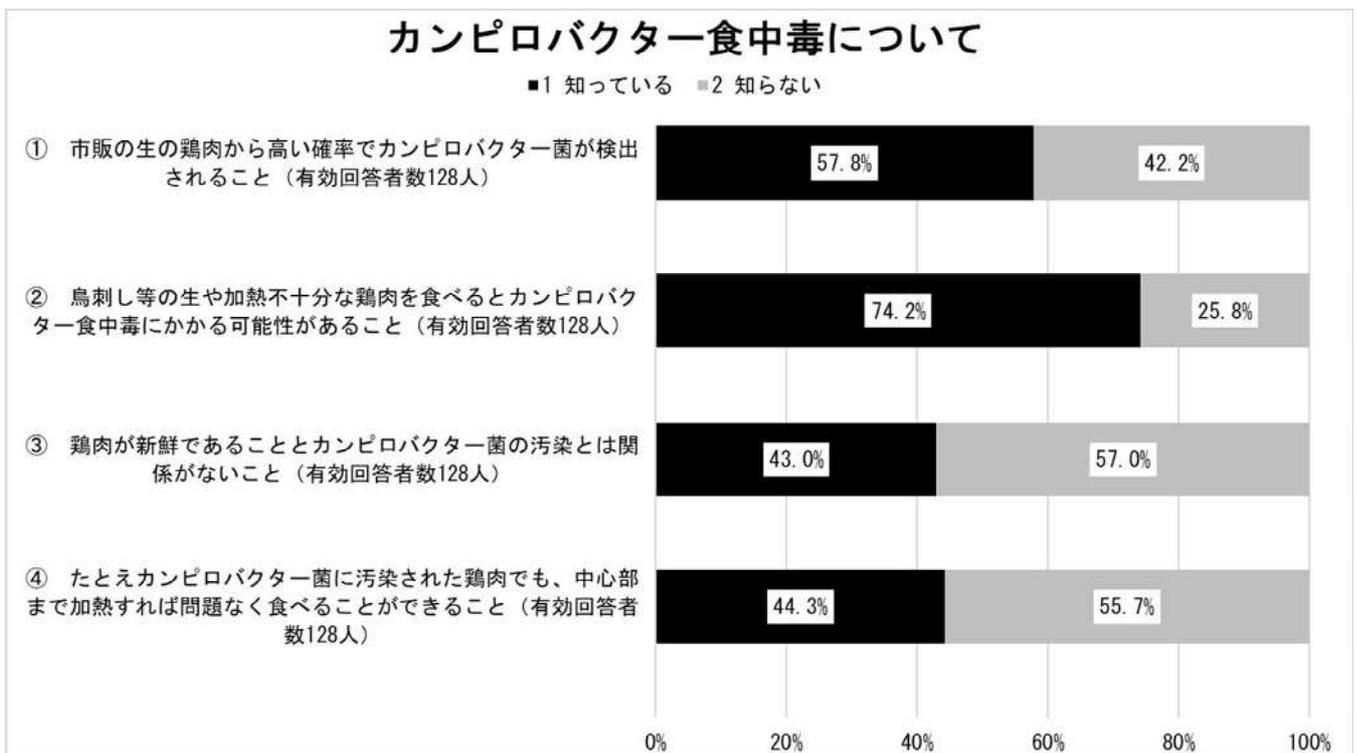


【問 25】 近年多発するカンピロバクター食中毒について、次のことを知っていますか。（各一つ選択）

- ① 市販の生の鶏肉から高い確率でカンピロバクター菌が検出されること
- ② 鳥刺し等の生や加熱不十分な鶏肉を食べるとカンピロバクター食中毒にかかる可能性があること
- ③ 鶏肉が新鮮であることとカンピロバクター菌の汚染とは関係がないこと
- ④ たとえカンピロバクター菌に汚染された鶏肉でも、中心部まで加熱すれば問題なく食べることができること

<回答結果>

カンピロバクター食中毒に関わる4つの項目について、「知っている」を回答した方は、① 57.8%、② 74.2%、③ 43.0%、④ 44.3%であった。

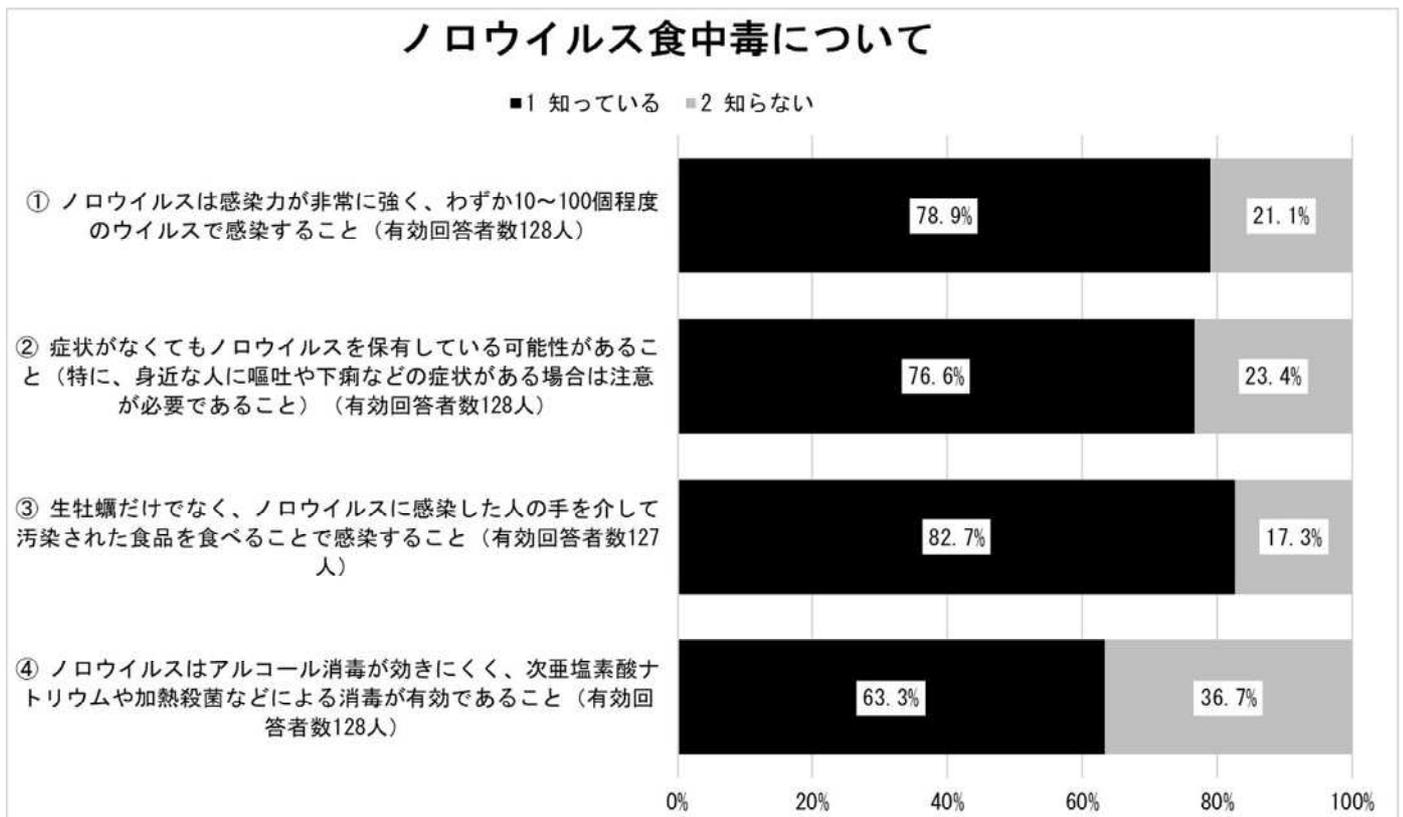


【問 26】近年多発するノロウイルス食中毒について、次のことを知っていますか。（一つ選択）

- ① ノロウイルスは感染力が非常に強く、わずか 10～100 個程度のウイルスで感染すること
- ② 症状がなくてもノロウイルスを保有している可能性があること（特に、身近な人に嘔吐や下痢などの症状がある場合は注意が必要であること
- ③ 生牡蠣だけでなく、ノロウイルスに感染した人の手を介して汚染された食品を食べること
- ④ ノロウイルスはアルコール消毒が効きにくく、次亜塩素酸ナトリウムや加熱殺菌などによる消毒が有効であること

<回答結果>

ノロウイルス食中毒に関わる 4 つの項目について、「知っている」を回答した方は、① 78.9%、② 76.6%、③ 82.7%、④ 63.3%であった。

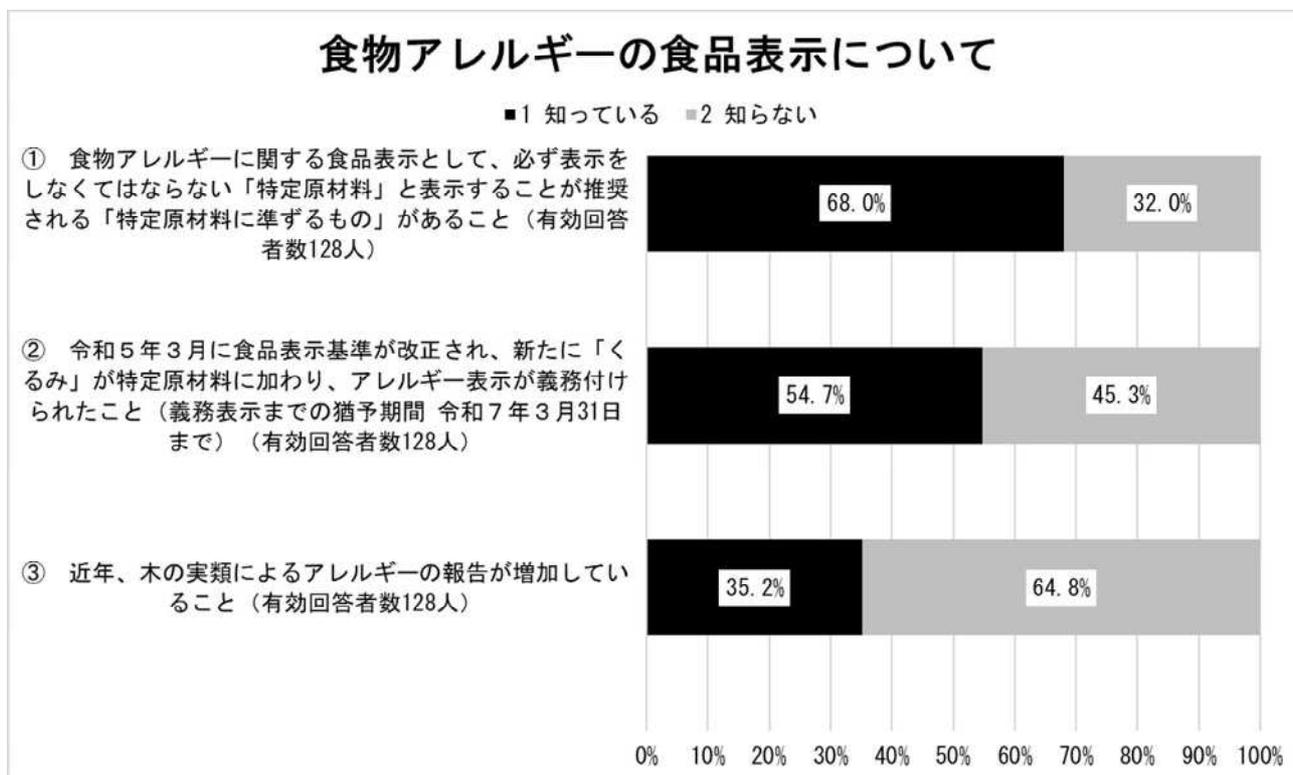


【問 27】 あなたは、食品表示制度のうち食物アレルギーについて、次のことを知っていますか。(各一つ選択)

- ① 食物アレルギーに関する食品表示として、必ず表示をしなければならない「特定原材料」と表示することが推奨される「特定原材料に準ずるもの」があること
- ② 令和5年3月9日に食品表示基準が改正され、新たに「くるみ」が特定原材料に加わり、アレルギー表示が義務付けられたこと(義務表示までの猶予期間 令和7年3月31日まで)
- ③ 近年、木の実類によるアレルギーの報告が増加していること

<回答結果>

食物アレルギーに関する食品表示に関わる3つの項目について、「知っている」を回答した方は、① 68.0%、② 54.7%、③ 35.2%であった。



**【問 28】** 愛知県では Facebook で食の安全・安心に関する情報発信を行っています。また、今後ウェブページでも情報発信を行っていく予定です。以下のうち、どのような内容を期待しますか。（三つまで選択）また、「その他」を選択した場合、その内容を記入してください。

**【Facebook】**

○愛知県食の安全・安心情報サービス

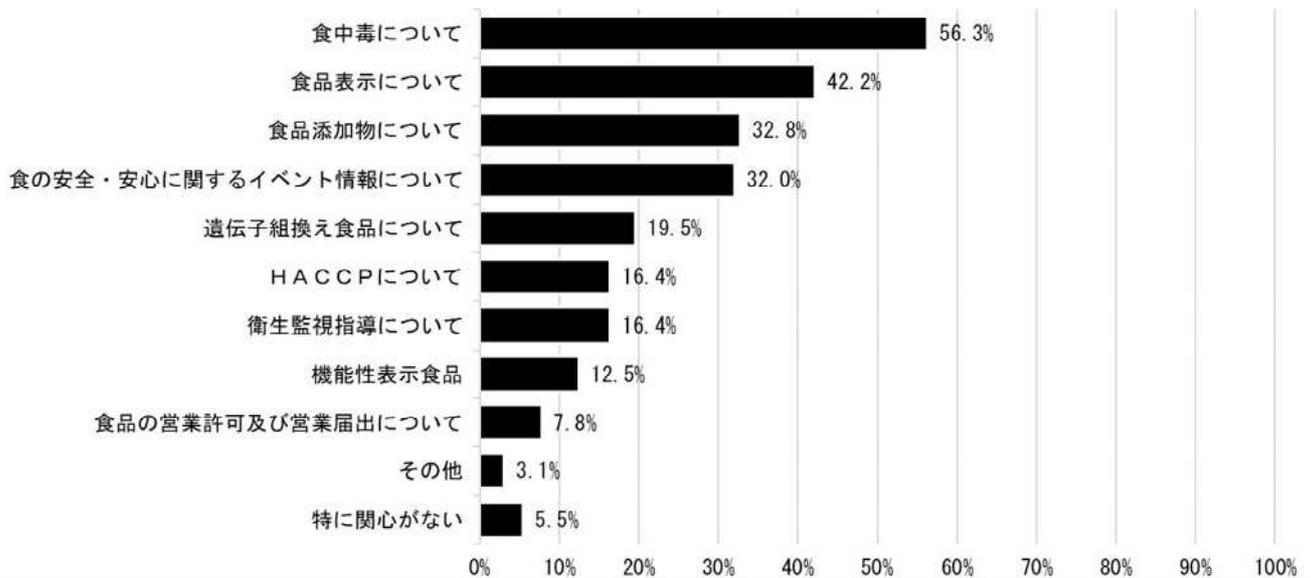
<https://www.facebook.com/aichishokuhin>

<回答結果>

愛知県の食の安全・安心に関する情報発信で、特に興味を持っているものについては、「食中毒について」が 56.3%で最も多く、次いで「食品表示について」が 42.2%、「食品添加物について」が 32.8%の順であった。また、「特に興味がない」と回答したのは 5.5%であった。

### 食の安全・安心に関する情報発信に期待する内容

(三つまで選択可：有効回答者数 128人 有効回答数 311)



**【問 29】 食の安全・安心に関する意見・要望等について、自由に記入してください。**

食の安全・安心に関する意見・要望等を自由に記載していただきました。ここでは、そのうち一部を抜粋して紹介します。

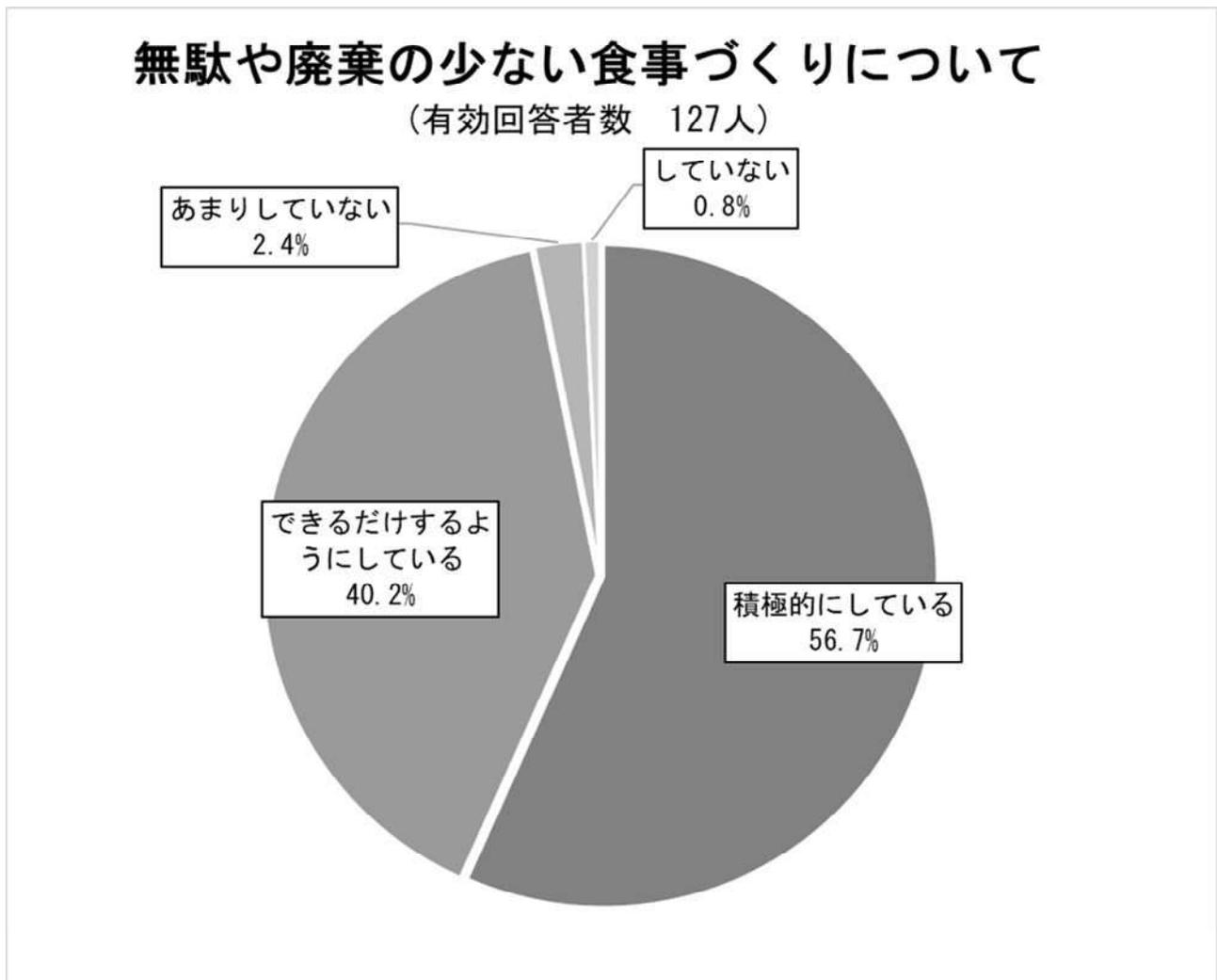
- ・ 昨今鳥インフルエンザが県内で発生しましたが、誤った情報が流れないような取組を期待します。
- ・ 消費者は生活しているだけでは何もわからないので、これからも新しい情報、知識を発信し教えてください。よろしくないメーカーさんへの働きかけは、一個人よりもやはり“県”の力の方が大きいので、よろしくお願い致します。
- ・ 「食品衛生」の観点から、愛知県の監視・指導による食品営業施設の衛生管理を強化して下さい。
- ・ 消費生活モニターになるまで、食品表示基準が改正されたことなどに関心もなく、知らなかった。多くの人が同様だろうと思われる。
- ・ 食品添加物について安全性の実証データに基づいた資料を一般の消費者にわかり易く広報していただきたいと思っています。
- ・ 農薬や添加物の使用量について、数値や基準を消費者が簡単に確認できる仕組みを作ってほしい。
- ・ 食品添加物の各国のとりくみを発信してほしいです。認可、不認可の違いなど。
- ・ 愛知県内産の食の安全、安心に関する広報活動は、愛知県は不足していると思う。市町村の方がまだ充実している。
- ・ 物流のコールドチェーン化が急がれるなか、消費者に安全・安心な食糧需給を可能とする高度な物流網や輸送の際の温度管理のためのソリューションが必要です。その仕組みの実現に愛知県も協力することが重要と考えます。
- ・ 食品表示についてはモニターになるまでほとんど知らなかったなので、もっと情報発信しても良いと思う。
- ・ 正しい知識を身に着けたいのでワークショップや勉強会を各地域で数多く行ってほしいです。
- ・ 店頭での指導を多く、厳しくやってほしい。
- ・ 都市近郊型の農園と連携して、愛知県の農作物、特に伝統野菜の地産地消や、福祉作業所と協力して農業連携を強化し、食の安全・安心を愛知県全体で支える仕組みを作ってほしい。
- ・ 食に関係する内容が誰でも簡単に理解できると良い。難しい言葉が多すぎる。

#### 4 食生活について

【問 30】 あなたは、食べ残しなど無駄や廃棄の少ない食事づくりを行っていますか。(一つ選択)

<回答結果>

無駄や廃棄の少ない食事づくりについて、「積極的にしている」が 56.7%で最も多く、次いで「できるだけするようにしている」が 40.2%、「あまりしていない」が 2.4%、「していない」が 0.8%の順であった。

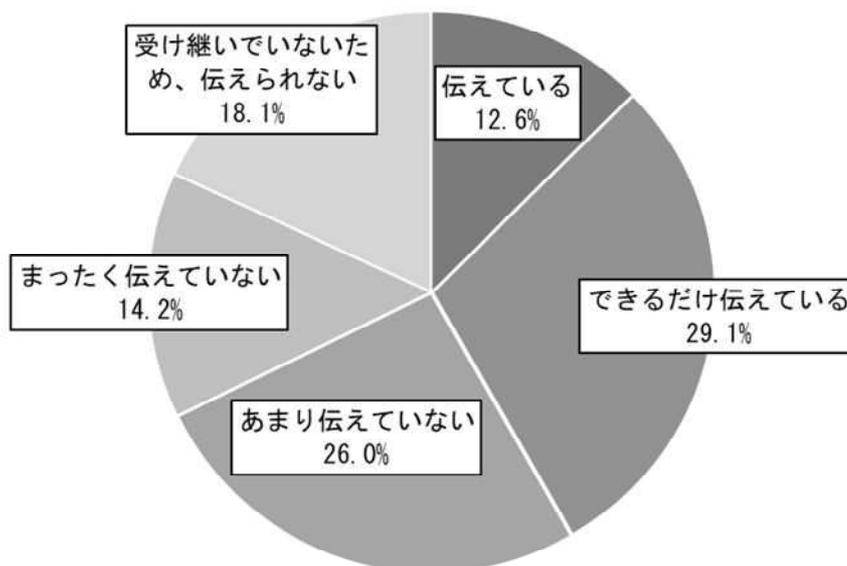


【問 31】 あなたは、家庭や地域で受け継がれてきた郷土料理等を家庭（子どもやお孫さんを含む）や地域（ボランティア活動等）で次世代に伝えていますか。（一つ選択）

<回答結果>

家庭や地域で受け継がれてきた郷土料理等を家庭（子どもやお孫さんを含む）や地域（ボランティア活動等）で次世代に伝えているかについて、「できるだけ伝えている」が29.1%で最も多く、次いで「あまり伝えていない」が26.0%、「受け継いでいないため、伝えられない」が18.1%、「まったく伝えていない」が14.2%、「伝えている」が12.6%の順であった。

### 郷土料理等の食文化の家庭・地域への継承について (有効回答者数127人)



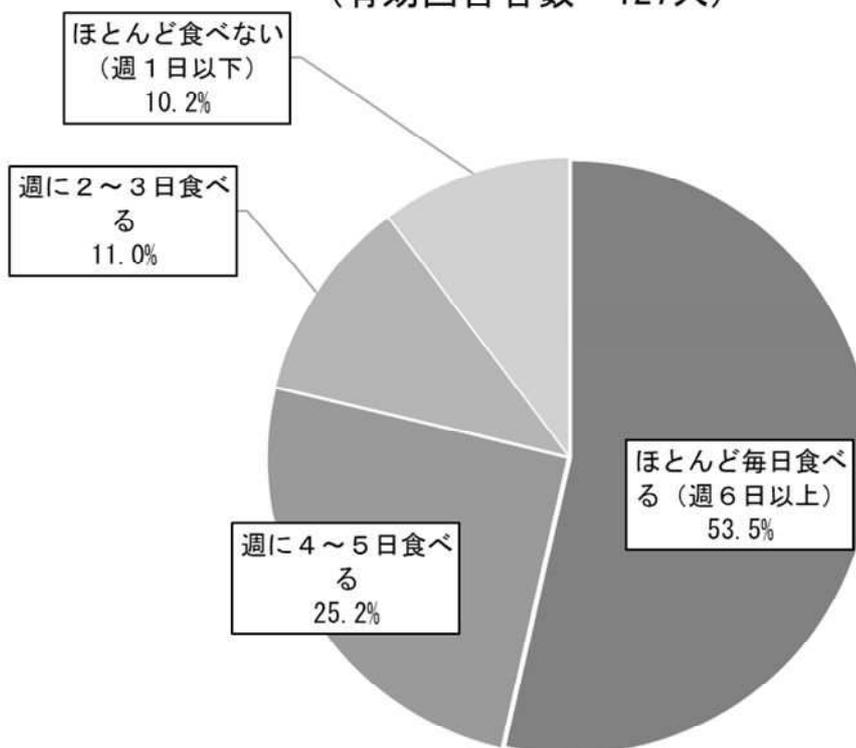
【問 32】 あなたは、1日に2回以上主食・主菜・副菜を三つそろえて食べるのが週に何日ありますか。(一つ選択)

<回答結果>

栄養バランスに配慮した食事について、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、「ほとんど毎日食べている」が53.5%で最も多く、次いで「週に4～5日程食べる」が25.2%、「週に2～3日食べる」が11.0%、「ほとんど食べていない」が10.2%の順であった。

### 栄養バランスに配慮した食事について

(有効回答者数 127人)

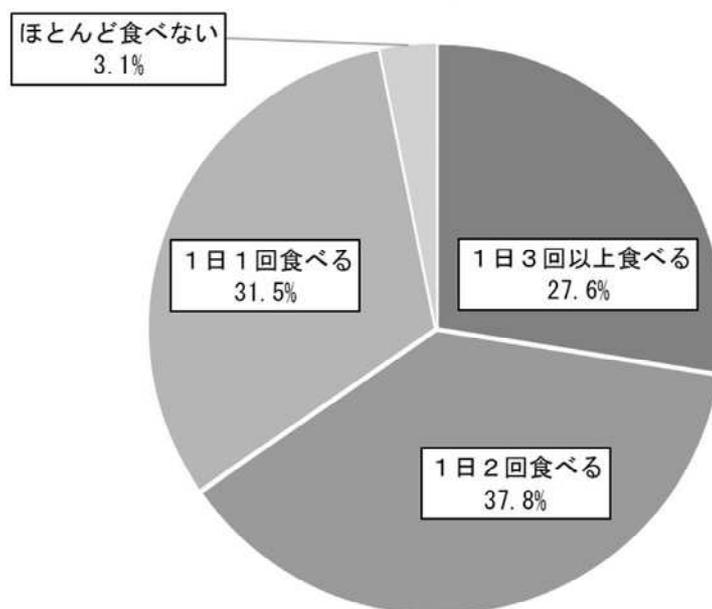


【問 33】 あなたが、野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を食べる頻度はどのくらいですか。（一つ選択）

<回答結果>

野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を食べる頻度について、「1日2回食べる」が37.8%で最も多く、次いで「1日1回食べる」が31.5%、「1日3回以上食べる」が27.6%、「ほとんど食べない」が3.1%の順であった。

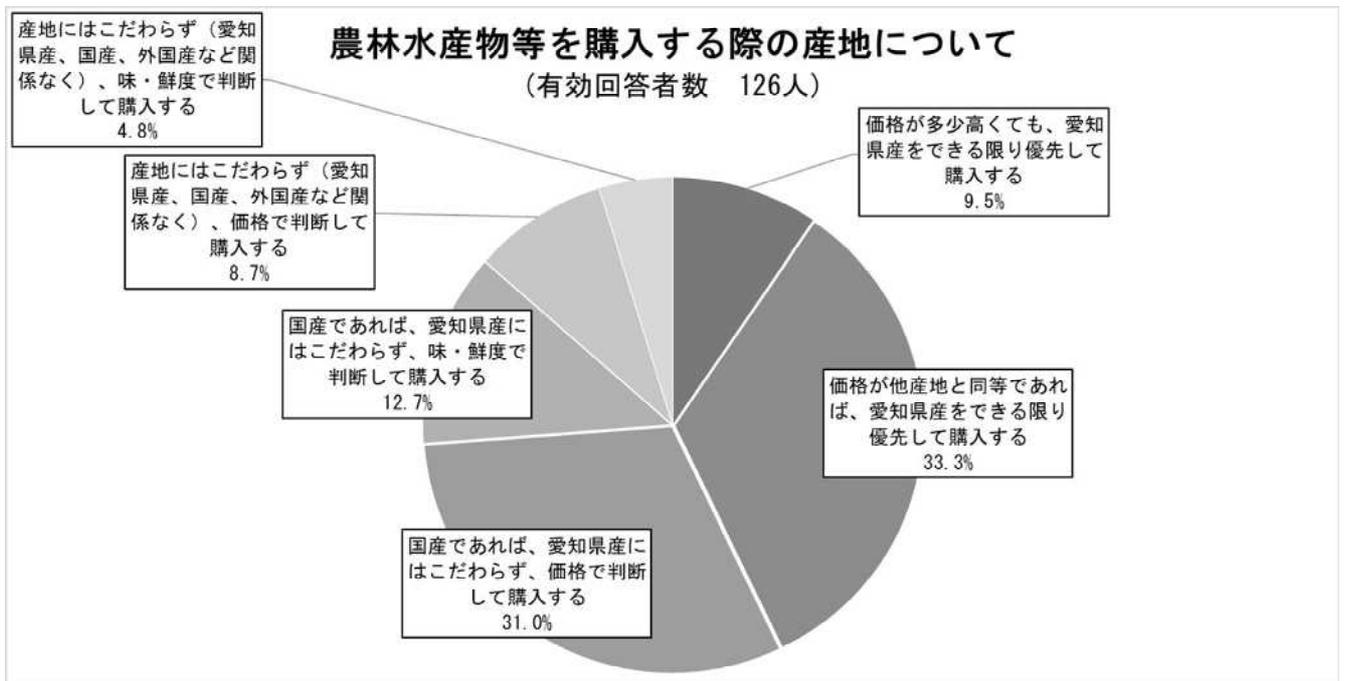
### 野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を 食べる頻度について (有効回答者数 127人)



【問 34】 あなたは、農林水産物等（米、野菜、果物、肉、卵、魚など）の産地が明らかな場合、どのような産地を優先して購入しますか。（一つ選択）

<回答結果>

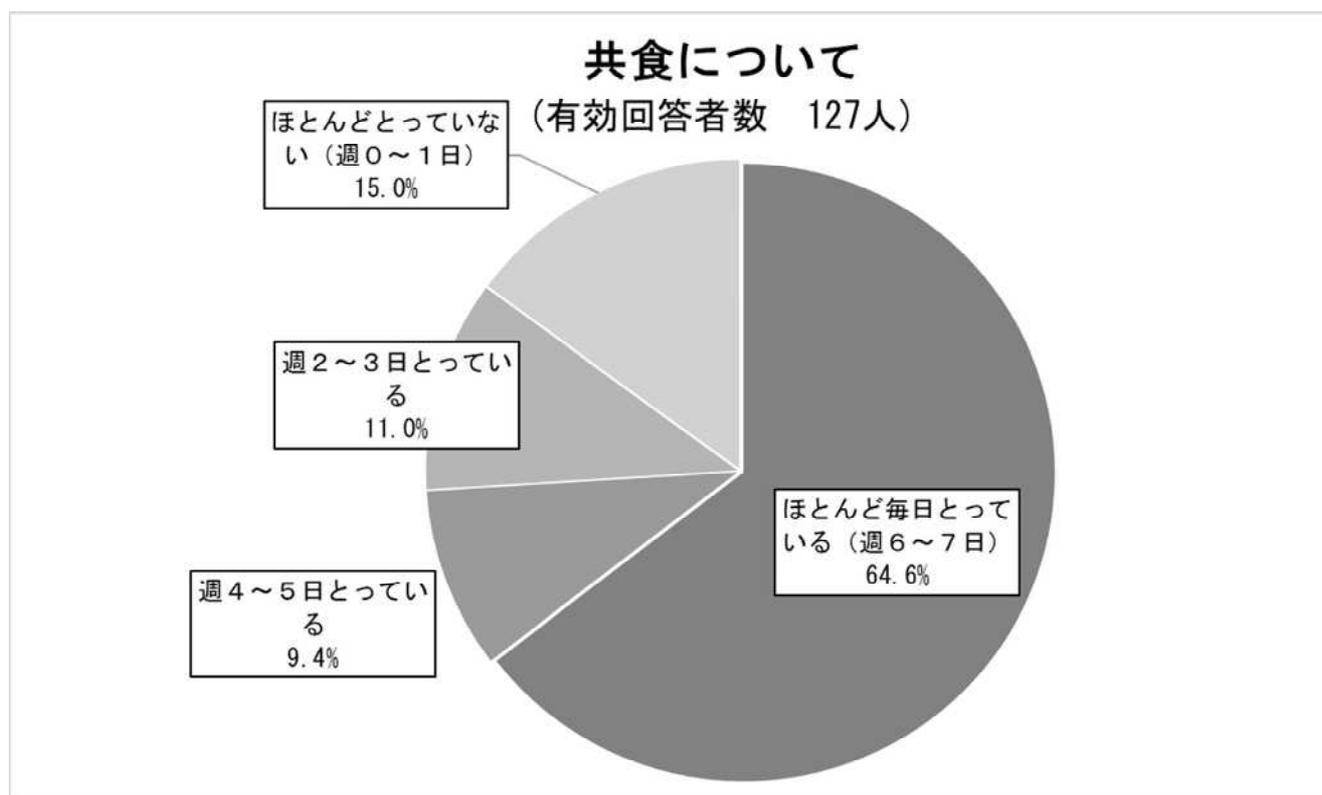
農林水産物等を購入する際の産地について、「価格が他産地と同等であれば、愛知県産をできる限り優先して購入する」が 33.3%で最も多く、次いで「国産であれば、愛知県産にはこだわらず価格で判断して購入する」が 31.0%、「国産であれば、愛知県産にはこだわらず、味・鮮度で判断して購入する」が 12.7%、「価格が多少高くても愛知県産をできる限り優先して購入する」が 9.5%の順であった。



【問 35】 あなたは、1日1食以上、家族や友人などと一緒に楽しく食事をとっていますか。(一つ選択)

<回答結果>

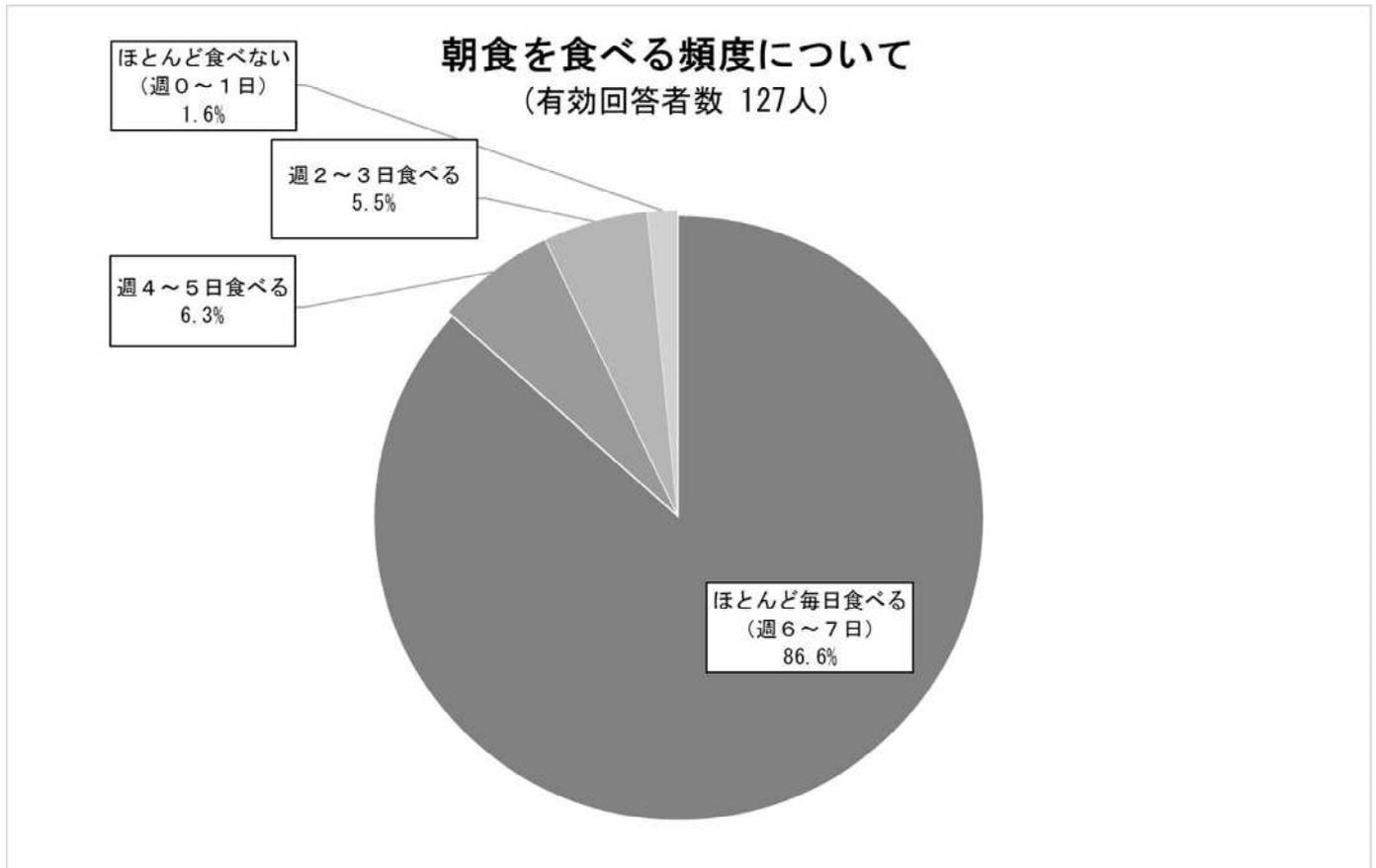
共食について、1日1食以上、家族や友人などと一緒に楽しく食事を「ほとんど毎日とっている」が64.6%で最も多く、次いで「ほとんどとっていない」が15.0%、「週2～3日とっている」が11.0%、「週4～5日とっている」が9.4%の順であった。



【問 36】 あなたは、朝食を食べますか。(一つ選択)

<回答結果>

朝食を食べる頻度について、「ほとんど毎日食べる」が 86.6%で最も多く、次いで「週 4～5 日食べる」が 6.3%、「週 2～3 日食べる」が 5.5%、「ほとんど食べない」が 1.6%の順であった。





消費生活モニターアンケート  
調査報告

2025年10月発行

愛知県県民文化局県民生活部県民生活課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6163 (ダイヤルイン)